

Tezukayama

大学通信帝塚山

UNIVERSITY LETTER

2025 SPRING

特集 2024年、大学開学60周年

振り返る 開学60周年 未来への扉を開いた1年間



SINCE 1964
60th

特集

2024年、 大学開学60周年

振り返る開学60周年 未来への扉を開いた1年間

1964年、東京で初めてのオリムピックが開催された年。三碓の丘に、教養学部のみを擁する女子大学として誕生した帝塚山大学は、2024年、60周年を迎えました。
奥村由美子学長は、この節目の年を「人間の還暦」に重ね、新たな未来への一歩を踏み出す決意を表明しました。次の10年への発展を見据え、教職員と学生が一体となって記念行事を行ったこの1年は、「未来への扉」を開き、本学の新たな時代の到来を印象つける年となりました。

01-05 特集

2024年、大学開学60周年

振り返る 開学60周年

未来への扉を開いた1年間

- 06 Close-up News
- 07 キャンパスレポート
- 09 クラブ・サークル活動紹介
- 12 卒業生紹介
- 13 地域連携×大学連携
- 15 キャリアサポート
- 17 IRレポート
- 19 研究紹介
- 20 奈良学への招待・所蔵品紹介
教員業績図書紹介
- 21 帝塚山TOPICS
- 25 Event & Information
- 27 公式SNS一覧・オープンキャンパス情報



Tezukayama University Archives 帝塚山大学歴史絵巻 Vol.9

この丘に立てば (1968年/昭和43年)



帝塚山大学の歌「この丘に立てば」は、学生の要望によって誕生しました。初めて披露されたのは、1968(昭和43)年3月17日、東生駒キャンパス旧1号館の111教室で行われた第1回卒業式でした。

作詞を手掛けたのは、関西を代表する詩人である小野十三郎氏(1903(明治36)年—1996(平成8)年)です。当時、小野氏は帝塚山学院短期大学と大学で講師を務め、本学にも非常勤で出講していました。作詞の依頼は、当時、帝塚山学院と本学の要職を兼務していた森蔵吉初代学長(以下、森学長)からされたものである可能性が高いと考えられます。ただし、『小野十三郎著作集 第3巻』(1991(平成3)年)には、本学と思しき「東生駒にある女子大学」で講義をしていたという記述はあるものの、学歌の作詞についての記録は残されていません。

第1回卒業式当日に発行された「帝塚山大学新聞19号」において、小野氏は本学の建学の精神や環境を考慮し、「あの丘に立てば世界が見える(原文ママ)」というフレーズを生かしたと語っています。当時、森学長は「教育や文化の振興を通じて、戦争の悲劇を繰り返さない」との理念で設立されたユネスコの活動に強い関心を示しており、そのためか本学の開学当初のカリキュラムには国連やユネスコ研究に関する科目が設けられていました。「帝塚山大学新聞1号」(1964(昭和39)年)に掲載された国際連合東京広報部長との対談記事の見出し「平和のとりで」がユネスコ憲章の前文に掲げられている文言であることから、森学長がユネスコの理念である「国際平和」を意識していたことがうかがえます。

学歌の「この丘に立てば世界はひとつ」という歌詞には、森学長が三碓の丘(この丘)でめざした世界平和を象徴しているのかもしれませんが。



開学60周年記念式典を挙行

「実学」を主軸に、真の教養人の育成への決意新たに

10月5日、学園講堂にて開学60周年記念式典を挙行し、大学関係者をはじめ、奈良県内の自治体や企業、団体から約200名が参列。式典では、富岡将人理事長と奥村由美子学長が「実学」を基盤とした教育のさらなる発展を誓い、来賓からも大学と地域の連携強化への期待が寄せられました。式典後には、お笑いコンビ「笑い飯」の哲夫さんによる講演と、奈良フィルハーモニー管弦楽団による弦楽四重奏が行われ、記念すべき一日を華やかに彩りました。



10月5日、学園講堂にて、帝塚山大学開学60周年記念式典を挙行しました。大学や高等学校の関係者をはじめ、奈良県内の自治体、企業、団体などから約200名が参列し、記念式典のほか講演会と演奏会が厳かに執り行われました。

式典では、富岡将人理事長が「実学の帝塚山大学として、時代を『生き抜く力』と、時代の『変化に対応できる力』を身につけることを目的とした大学教育を進めている。全学でデータサイエンスの基礎を学ぶことができる科目を展開するなど、時代や社会を先取りした教育で有為な人材の育成に努めている」と挨拶。「少子化の時代に大学経営は厳しさを増すが、『実学』を軸に、あらゆる施策を講じていきたい」と力強く語りました。

続いて、奥村由美子学長は「60年といえば還暦。大学のあり方が厳しく問われる今、周年を機に初心に戻り、新たな歩みを進めたい」と述べ、本学の「実学」の具体例として、各学科が地域で展開する取り組みを紹介しました。「学生は本物に触れることで専門的、総合的、実践的な『知』を身につける。他者より良い関係を築きながら社会の課題解決に挑めるよう、今後も細やかに支援していく」とし、「真の教養を備えた人材の育成」への強い決意を示しました。

来賓として、西村高則奈良県副知事と真銅正宣奈良市副市長が、山下真知事と中川元庸市長の祝辞を代読し、本学との連携を深め、地域発展に貢献することへの期待を述べました。式典後には、奈良県出身のお笑いコンビ「笑い飯」の哲夫さんによる記念講演が行われ、奈良や仏教の歴史にまつわる豊富な知識をユーモアあふれる話に、会場は笑いに包まれました。

佳日の締めくくりは、奈良フィルハーモニー管弦楽団による弦楽四重奏です。ハイモンの第77番「皇帝」の優美で荘厳な旋律が響き渡ると、場内は静かに聞き入っていました。アンコールではモーツァルトの弦楽四重奏曲第一番ト長調が披露され、会場はひととき大きな拍手に包まれました。

■約200名の招待客を前に、力強く挨拶をする奥村由美子学長。「真の教養を備えた人材の育成」を掲げ、大学の未来へのゆるぎない決意を語った。■「大学の冬の時代であっても、実学教育による社会に有意な人材の育成を貫く」富岡将人理事長は、帝塚山大学の理念を改めて強調し、未来への展望を述べた。■奈良県出身のお笑いコンビ「笑い飯」の哲夫さんが登壇すると、会場は一気に和やかなムードに。奈良や仏教の歴史にまつわる豊富な知識をユーモアたっぷりに語り、会場を沸かせた。■奈良フィルハーモニー管弦楽団の弦楽四重奏の華やかな調べとともに、祝賀の空気が一層高まる。記念すべき一日を締めくくりにふさわしい演奏に聴衆が静かに聞き入った。

周年を寿ぐ さまざまな事業が行われた1年間

大学の節目を盛り上げるため、年間を通じてさまざまな活動が展開されました。
学部や学科だけでなく、学生や職員も一体となって記念の年を祝いました。



9月10日 現代生活学部居住空間デザイン学科

建築クイズ王決定戦2024

建築士試験の問題をクイズにして楽しく学ぶイベント「建築クイズ王決定戦」。学科の全学年が参加し、学生同士が交流を図りながら〇×問題に挑戦しました。



11月8日 記念植樹式

大学同窓会から記念樹の贈呈

東生駒キャンパスに寄贈された記念樹、泰山木の植樹式が行われました。奥村由美子学長（写真中）と小川育子同窓会長（写真右）がともに木に水を注ぎ、銘板に「泰山木」の文字を揮毫した尾島美優さん（こども教育3年/写真左）が序幕を行いました。



9月24日・10月22日 心理学部心理学科

日本応用心理学会第90回大会特別企画イベント

日本応用心理学会との共催で、開学60周年記念イベントを2度にわたり開催しました。9月24日には、蓮花一己名誉教授による交通心理学（写真上）に関する講演と文学部の河口充勇教授による「奈良の酒」に関する講演が行われました。10月22日にはシンポジウムを実施。大学と地域の協働をテーマに多様な話題提供が行われ、心理学部の学生（写真下）が奈良県内の小学校での心理教育の取り組みを報告しました。



6月21日 法学部法学科

松岡幸司客員教授叙勲記念講座

松岡幸司 帝塚山大学客員教授の「瑞宝双光章」受章記念と「警察実務講座」開催100回記念を兼ねた特別講座が行われました。警察官をめざす学生に対して、これまでの警察官人生を話されました。現役警察官である卒業生も交えた座談会も行われました。

2024										2023	
11月4日	10月26日	10月22日	10月11日	9月24日	9月21日	9月10日	8月26日	7月25日	7月14日	6月21日	6月15日
当麻寺護国院で贈呈式	【文学部】 「第一回つづきのこどもフェス」を開催	【心理学部】 日本応用心理学会 第90回大会特別企画イベント開催	【心理学部】 大学開学60周年記念式典を挙げる	【心理学部】 日本応用心理学会 第90回大会特別企画イベント開催	【経済学部】 「開学60周年記念講座」を「経営者として起る化学反応」を開催	【現代生活学部】 「建築クイズ王決定戦2024」を開催	【現代生活学部】 開学60周年記念サイトを公開	【文学部】 当麻寺護国院 葛本雅崇住職による講演会を開催	【経済学部】 開学60周年記念「第25回帝塚山大学タイピングコンテスト」を開催	【法学部】 松岡幸司客員教授瑞宝双光章受章記念と警察実務講座100回記念特別講座を開催	【現代生活学部】 「食物栄養学科の過去・現在・未来をつなぐ」を開催
											4月8日
											【全学】 開学60周年を記念したオリジナルの「帝塚山あめ」を、卒業生が代表を務める株ANYQOTTの全面協力で開催。学内のYショップで販売開始
											4月1日
											【全学】 第61回帝塚山大学入学式および第36回帝塚山大学大学院入学式を挙げる
											4月1日
											【全学】 帝塚山大学 開学60周年特別制度 特定の入試制度における入学者の入学金を入学後に全額もしくは半額返還
											11月21日
											【全学】 60周年シンボルマークコンテスト表彰式。高瀬将生さん（居住1年/当時の応募者がグラブに選ばれ、2023年12月1日〜3月31日まで周年記念シンボルマークとして各種広報媒体で使用されること）



10月26日

教育学部こども教育学科 てづかのこどもフェス

詳細記事はP23

学園前キャンパスで親子向けのイベントを開催。絵本の読み聞かせ、腹話術、工作イベントのほか、作家たかいよしかず先生によるワークショップを実施。運営には50名を超える学科の学生がかかりました。



11月4日ほか 文学部日本文化学科

當麻寺に関するプロジェクト 詳細記事はP21

2023年に国の重要無形民俗文化財に指定された當麻寺の練供養。その魅力を、学科での学びを生かして学生が発信するため、数々のプロジェクトに取り組みました。練供養のPRポスターの制作に加え、一日観光案内所の開設、関連展示やシンポジウムの実施などを実施しました。

詳細記事はP19の研究紹介

2025年2月11日

研究成果を公開講座

画像解析で阿武山古墳副葬品に綴織りの特徴があることを突き止める

牟田口章人客員教授の講演を、ファミリークラブの会員および一般の方々を対象に開催。阿武山古墳の副葬品が大織冠である確率が高いことを示し、被葬者が藤原鎌足である可能性について解説しました。



復元した大織冠を被って笑顔の牟田口客員教授と奥村学長

11月16日 経済経営学部経済学学科

開学60周年記念の一環でゼミ研究報告会を開催

毎年虹色祭の開催に合わせて東生駒キャンパスで行うゼミ研究報告会を、周年事業の一環で父母らを含めた一般の方にも広く公開しました。2012年度から始まった本報告会の歴史を振り返るコーナーも設けられ、多くの来場者が学生の研究成果に目を留めていました。



6月15日

現代生活学部食物栄養学科

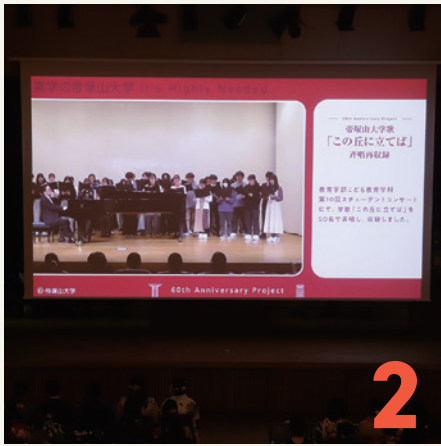
食物栄養学科の過去・現在・未来をつなぐ

学科の卒業生や在学生約100名が参加。管理栄養士国家試験対策や管理栄養士としての働き方などについて、在学生と卒業生が交流し情報交換が行われました。

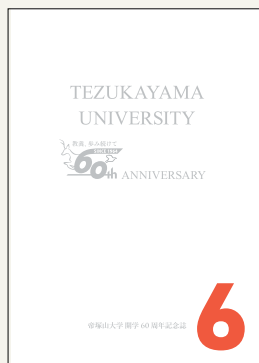


2025	
11月8日	【全学】 植樹式 同窓会から寄贈された泰山木(タイサンボク)が東生駒キャンパスの中庭に植樹される。尾島美優さん(こども教育3年)が銘板に揮毫。
11月13日	【法学部法学科】 「金融ウェルビーイング 安心ミライへの金融教育」公開講座を開催
11月14日 ―12月8日	【文学部日本文化学科】 「當麻寺プロジェクト」写真でみる當麻寺―過去と現在―を富城市歴史博物館で開催
11月16日	【経済経営学部経済学学科】 開学60周年記念ゼミ研究報告会を実施
11月16日 ・17日	【法学部法学科ドボンスラウス】 「虹色祭」で餅つきパフォーマンス
11月18日 ―12月21日	【文学部日本文化学科】 「當麻寺プロジェクト」第43回特別展示「當麻寺と中將姫」を本学附属博物館で開催
12月6日	【文学部日本文化学科】 「開学60周年記念講座「日本茶と日本酒に親しむ」文化と産業に触れる」
12月20日	【文学部日本文化学科】 味尾田組 日本文化文芸の講演会
1月17日	【教育学部こども教育学科】 帝塚山大学の歌「この丘に立てば」新音源収録＆スチューデントコンサートで初披露
1月21日	【文学部日本文化学科】 「奈良県住みます芸人 安田善紀さんの講演会」
2月11日	【全学】 公開講座「大織冠・藤原鎌足に迫る」発掘から90年 史跡「阿武山古墳」を開催
2月14日	【現代生活学部食物栄養学科】 「居住空間デザイン学科」(法学部法学科) 団地住民と地域住民の交流イベント「コミュニティフェスティバル」をUR奈良市内で豊美第1団地で開催
3月20日	【現代生活学部食物栄養学科】 イベント「油を究める 生化学×調理学」をなら歴史芸術文化村で実施
3月22日	【全学】 第58回帝塚山大学卒業式および第33回帝塚山大学大学院修了式を挙げる 新アカデミックガウン＆角帽を初披露
3月	【全学】 学園前キャンパスの照明をリニューアル
4月	【全学】 大学開学60周年記念誌発行
4月1日	【全学】 東生駒キャンパス6号館1Fに新たに学生ホール誕生
4月12日	【全学】 東生駒キャンパス周遊型謎解きゲーム完成 新入生歓迎会で初披露

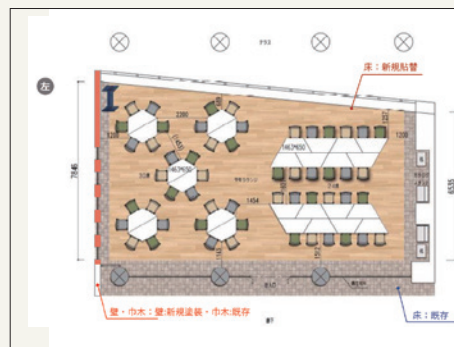
数々のプロジェクトが周年を彩り、
歴史のバトンを未来へとつなぐ



- 1** 60周年を記念して教育学部の学生有志の混声合唱で収録された帝塚山大学の歌「この丘に立てば」。2025年1月17日に行われた教育学部の「スチューデントコンサート」のプログラム1番としても披露された。
- 2** 卒業式の冒頭に「この丘に立てば」の収録に向けて練習に励む学生らをとらえたショートムービーが流された。
- 3** 女子大学時代からの伝統であったアカデミックガウンと角帽。卒業生はガウンの襟に自分の名前を刺繍し、それを後輩へと受け渡すならわしであった。60周年を記念して、現代風にリブランディングされたアカデミックガウンは、学長・副学長、学士、修士（博士）でそれぞれデザインが異なる。今後の卒業式では、60周年から新たに始まった伝統として受け継がれていく。
- 4** 60周年記念のスペシャルサイトを開設。60年をカウントアップするオープニングでは、アカデミックガウンをまとった開学当時の卒業式の様子も見られる。



- 5** 自校教育を視野に入れた「謎解きゲーム」。東生駒キャンパスのスポットに隠された謎を解き明かす周遊型のアクティビティで、大学に関する知識も自然に身につけられる。新入生歓迎会などの大学行事で実施する。
- 6** 開学60周年記念誌。50周年以降の10年間を中心に編集されている。特に、学部学科の取り組みや地域連携・産官学連携活動に焦点が当てられている。
- 7** 学園前キャンパスの照明を一新。はとの広場につながる階段のフットライトが整えられたほか、16号館を浮かび上げらせるように照らすライトも備えられた。
- 8** 学生ホールとして生まれ変わった東生駒キャンパス6号館1階の共用スペース。ガラス張りの開放的な空間に可動式のデスクと椅子が置かれ、グループワークや自主学習など多目的に活用することができる。





異文化に触れて、未知の世界へと羽ばたく。

2024年度、3人の学生が外務省や奈良県主催の海外派遣事業で派遣団の一員として選拔され、海外での文化交流活動に取り組みました。現地での同年代の学生との交流や異文化との遭遇を経て、新たな世界が広がった3人の体験談を紹介します。それぞれの主催元や大学内で、派遣事業における成果について報告会が行われました。

韓国



偏見に惑わされず、人対人の交流を深めていきたい

もともとK-POPに興味があって、韓国には行ってみたいと思っていました。日韓文化交流基金主催の大学生訪韓団が狭き門なのはわかっていたのですが、チャレンジしないと何事も始まらないと応募を決意。約10倍の倍率を突破して28名の訪韓団の一員に選ばれました。

現地では、ソウル大学や政府機関の表敬訪問のほか、「日韓交流おまつり 2024 in Seoul」で和紙折染めワークショップを通じて日本文化を紹介しました。同じアジアでも韓国と日本は共通点も相違点もあり、民俗学を学ぶ身からいろいろな発見がありました。特に家の構造や食事マナーなどの違いが興味深かったです。帰国してからも韓国語の勉強は続けています。親世代と私の世代では国に対する印象が異なることも多いので、身近なところから互いの良さを伝えていきたいと思っています。

文学部日本文化学科3年
有川 茉那さん



日本にはない民族文化の多様性に触れることができた

派遣団に参加したきっかけは、甘粛省という中国の主要都市ではない地域への好奇心からです。バスの窓から見える砂漠地域特有の平らな屋根の家、路上で売られている丸ごとの鶏や豚、山道で遭遇した羊の大群…。日本では見ることができない現地の景色の何もかもが新鮮でした。また、歴史的建造物の見学や現地大学生との交流を通じて、甘粛省の文化や歴史に触れることができたのも貴重な経験となりました。特に印象的だったのは、イスラム系の回族の人々が他民族と共存しながら暮らす姿。民族文化の多様性を目の当たりにし、それぞれの価値観を尊重する大切さを実感しました。多少の不安があっても、勇気を出して一歩踏み出せば、新しく楽しい世界が目の前に広がります！後輩の皆さんも異文化交流を自分の未来へとつなげてください。



法学部法学科2年
竹内 嵯恵さん

中国 甘粛省



雄大な風景は日本へと続く文化の道

日本文化のルーツでもある中国文化に以前から興味があり、派遣団に応募しました。現地では、莫高窟（世界遺産登録の仏教石窟群）や広大な砂漠、何万枚もの太陽光パネルが並ぶ発電所など、日本にはないスケール感の風景や施設に圧倒されました。予想していたより現地では英語が共通言語ではなく、翻訳アプリや身振り手振りを駆使して意思疎通を図りました。中国語をがんばって話すと現地の人々の態度や表情が柔らくなるのが感じられて、言語学習へのモチベーションが高まりました。今回の訪問で、日本文化が中国をはじめとする大陸文化から多大な影響を受けていることを改めて実感しました。大学院進学が決まっている私にとって、今後の研究につながる新しい視点を得られたように思います。後輩の皆さんも海外に目を向けて新しい経験をしてほしいです。

文学部日本文化学科4年
吉田 朱里さん



中国 甘粛省



法学部 法学科



公務員試験・資格取得支援を強力にバックアップ!

法学部生が気兼ねなく自由に集える場所としてラーニングコモンズが設置されており、自習しながら他学年と交流できる場所となっています。他学部にも同様の部屋が設置されていますが、法学部の特徴は開室時に法学部教員が常駐している点で、雑談はもちろんのこと、進路相談なども気軽にできる場所として人気です。学内でのバックアップ体制とこれまでに培ってきた実務講座のノウハウの相乗効果もあって、2024年度の進路決定状況は公務員合格者が、のべ30名となりました。

心理学部 心理学科



アニマルセラピー演習を実施しました

本演習は、日本ドルフィンセンター（香川県）のご協力のもと、8月19日～21日に実施されました。獣医師さんやイルカトレーナーさんからアニマルセラピーや動物介在活動に関する講義を受けたり、実際にイルカと触れ合う中で、そのセラピー効果やイルカへの訓練（条件づけ理論）について学んだり、実践的な演習となっています。また、体験の学びを明確化するためのグループワークも随時実施し、受講生同士の交流も積極的に行われました。受講生は生き生きと充実した様子で取り組んでいました。

経済経営学部 経済経営学科



奈良県五條市で買い物困難者対策に関する研究報告を行いました

経済経営学部では、昨年4月より奈良県五條市の買い物困難者実態把握調査に取り組んできました。2025年1月23日、五條市役所においてこれまでの研究内容を報告する最終報告会が行われ、荒木大恵講師・豊澤圭助教と経済経営学部3年の学生3名が、市民へのアンケート結果について報告したほか、自動配送ロボットを活用した配送サービスの政策提案を行いました。報告会の後、学生たちは平岡清 五條市長に報告書を手渡しました。経済経営学部では、今後も地域の課題解決に資する教育・研究を推進してまいります。

現代生活学部 食物栄養学科



UR都市機構の奈良学園前・鶴舞団地の交流イベント (UR DANCHI つながるーむ) ～児童たちに「暑さ対策」を伝えました～

8月8日に開催されたUR都市機構の交流イベントに、西田清一郎教授のゼミ学生3名が参加しました。熱中症をテーマとした劇やクイズ、「熱中症ハザードマップ（日本気象協会HP参照）づくり」、「日傘効果実験」、「救護体験」を行いました。劇とクイズで、熱中症の怖さを伝えました。日傘で、皮膚温が下がるのを実際に体験することで、日除けの大切さを伝えました。参加した児童と保護者から、熱中症がよくわかった、自由研究のいいテーマが見つかったという感想がありました。

文学部 日本文化学科



図書館司書合格報告会を実施しました

12月5日に、地方公務員の図書館司書に合格した4年生による報告会を実施しました。司書に高い関心を持っている1年生から3年生までが参加し、4年生は実際の試験や面接について説明しました。地元の図書館で司書として働きたいという想いを大切に育んできたこと、作文や面接でその熱意をどのように伝えたかなど、エピソードも交えて、自身の経験で得た重要なポイントをわかりやすく話してくれました。司書をめざす後輩たちにとって有意義で貴重な時間になりました。

Campus Report

学科と研究科の特色ある取り組みを紹介します。

教育学部 子ども教育学科



4年生テーマ探究報告会

教育学部では学生一人一人の「テーマ探究」を最終卒業要件としています。通常の授業ではグループワークも多いのですが、4年間の集大成は、個々の興味に添ったテーマを深掘りしていきます。報告方法はゼミごとに異なりますが、最終報告会は小学校・幼保それぞれのコースで共有して、ゼミ以外の教員や

学生が相互に参加できるようにしています。子どもや教育についてだけでなく、ゼミによっては子どもを取り巻く社会状況やサブカルチャーなど幅広いテーマ設定も可能で、将来の教育者・保育者としての資質形成に役立っています。

現代生活学部 居住空間デザイン学科



京都デザイン賞2024において、入賞1点・入選3点の素晴らしい成果を収めました！

3年生の谷口志希さんが「新しい京の和文具デザイン」で入賞、「京とうふ藤野」パッケージデザインでは4年生の坂下真菜さんと3年生の戸口珠緒さんが入選。さらに「布素材を使った小物のデザイン」では3年生の橋本悠里亜さんが入選を果たしました。京都デザイン賞は、伝統と新しい手法を組み合わせる新しい京都のデザインを発掘・顕彰するコンペティションです。今年で5年連続の受賞を達成するという快挙を成し遂げました。夏休みに自主的に取り組んだ学生たちの創造性と努力が実を結んだ結果です。

人文科学研究科 日本伝統文化専攻



大学院生がシンポジウム「當麻寺建立の歴史を考えるー歴史・考古・美術ー」で総司会を務めました

11月24日に、帝塚山大学開学60周年事業・文学部「當麻寺プロジェクト」の一環として、葛城市歴史博物館・附属博物館・考古学研究所・奈良学総合文化研究所共催シンポジウム「當麻寺建立の歴史を考えるー歴史・考古・美術ー」が葛城市歴史博物館あかねホールで開催され、人文科学研究科で考古学を学ぶ大学院2年生の平野由さん(写真右)が総司会を務めました。本シンポジウムは文学部生有志による発表と本学教授らによる発表・討論との2部構成で行われ、来場者から大変有意義な講演だったとのご感想を頂きました。

帝塚山大学大学院より Graduate School

心理科学研究科 心理科学専攻

海上交通心理学実習を実施しました

本実習は、「心理科学基礎論Ⅰ」の授業の一環として、8月5日～6日に実施されました。神戸大学大学院海事科学研究科のご協力のもと、同研究科所有の附属練習船「海神丸」で神戸大学深江キャンパスと高松港の間を往復航行する中で、海上交通における安全の確保や海上航行の構造と理論などを船内での講義・実習を通して学びました。今年度は中京大学心理学部の方々と乗合で実施されました。当日は天候にも恵まれ、受講生は普段馴染みのない分野での話にさまざまな学びがあったようです。



クラブ・サークル活動紹介

クラブ・サークルを通じて、学内外で活躍する
帝塚山大学生の姿をお届けします。

強化認定クラブ レスリング部

東生駒
キャンパス

レスリング部 破竹の全勝優勝で1部リーグへと振り返く！

吉田奨健選手は全国大会で銀メダル 升田康太選手は2年生ながら西日本の頂点に



春季での雪辱を果たす 最短での1部リーグ復帰

12月7日・8日に金岡公園体育館（大阪府堺市）で開催された「令和6年度西日本学生レスリング秋季リーグ戦」の2部リーグに参戦し、6戦全勝の完全優勝を飾り、1年での1部リーグへの復帰を決めました。

帝塚山大学○〔7-0〕 ●大阪公立大学
帝塚山大学○〔4-3〕 ●関西学院大学
帝塚山大学○〔5-2〕 ●桃山学院大学
帝塚山大学○〔6-1〕 ●関西大学
帝塚山大学○〔5-2〕 ●同志社大学
帝塚山大学○〔7-0〕 ●南九州大学
6戦全勝 優勝

昨年、同大会を制して1部リーグへ昇格したものの、シーズンを戦い抜くことはできず無念の降格。しかし、雌伏の時を経て1シーズンで1部リーグへと振り返りました。チームをけん引したのは6戦全勝の吉田奨健選手（経済経営4年）。その圧倒的な強さが評価され、2部リーグ優勝校から選ばれる小田原杯（2部リーグ最優秀選手）を獲得しました。

このリーグ戦は、各大学の7階級の代表選手が対戦する団体戦で、参加7校による総当たり戦で行われます。最大の山場となったのは2戦目となる関西学院大学戦。これまで苦戦を強いられてきたライバルである同大を4対3の僅差で破ったことで、勢いに乗りました。

続く試合も、吉田奨健選手（経済経営4年）を筆頭に、全国レベルでの活躍が期待される升田康太選手（経済経営2年）、3年生ながらチームを引っ張る沼田将吾選手（法3年）らが着実に勝利を重ね、最終日へと突入。全勝同士の対戦となった同志社大学との勝負も盤石な戦いぶりで制し、最終戦の南九州大学には1ポイントも与えずに撃破して全勝優勝を果たしました。

2025年度の春季リーグ戦からは1部リーグに再びステージを移し、並み居る強豪校との対戦の日々が始まります。今まで以上に厳しい戦いに臨むこととなりますが、チームが一丸となって勝利をめざしていきます。

全国大会で堂々の戦績 吉田奨健選手は惜しくも銀メダル

11月9日から10日にかけて、金岡公園体育館（大阪府堺市）で開催された「令和6年度内閣総理大臣杯 全日本大学選手権大会」では、以下の2選手が好成績を収めました。

令和6年度内閣総理大臣杯 全日本大学選手権大会

◆フリースタイル

96kg級 岡 山 大 一（経済経営1年）8位

92kg級 吉 田 奨 健（経済経営4年）準優勝

2年連続で決勝進出を果たした吉田奨健選手（経済経営4年）は、決勝戦で2024年U23世界選手権の日本代表選手と対戦。得意の足払いでポイントを奪い会場を大いに沸かせましたが、惜しくも敗れました。岡山大選手（経済経営1年）は1年生ながら堂々とした戦いぶりで、初めての全国入賞を達成しました。

西日本大会ではメダルラッシュ 層の厚さを見せつける

9月27日から29日まで金岡公園体育館（大阪府堺市）で開催された「西日本学生選手権」に、本学から17名が出場。西日本最高レベルの大会で、見事な成果を収めました。

フリースタイル86キロ級では、7月の西日本学生新人選手権でフリー＆グレコローマンの2冠を達成した升田康太選手（経済経営2年）が、今大会でも圧巻のパフォーマンス。決勝では豪快なフォール勝ちを決め、2年生ながら西日本王者の座を手に入れました。さらに、この優勝で12月の「天皇杯全日本選手権大会」への出場権も獲得しました。

女子50キロ級では、本学初の女子部員、矢野楓奈選手（法1年）が大活躍。準決勝、決勝ともに圧勝し、デビュー戦で堂々の1年生チャンピオンに輝きました。グレコローマンスタイル55キロ級では、一昨年準優勝の実績を持つ沼田将吾選手（法3年）が危なげなく勝ち進み、3位で2年ぶりのメダルを獲得。87キロ級では、西日本学生新人選手権銀メダリストの岡山大選手（経済経営1年）が銅メダル（3位）を獲得しました。

Clubs & Circles

強化認定クラブ 女子バレーボール部

東生駒
キャンパス

優勝争いに食い込むも惜しくも逃す 順位を一つ上げ1部リーグ3位に

9月7日に開幕した関西大学バレーボール連盟 2024年度秋季リーグ戦。春季を4位で終えた悔しさをバネに、女子バレーボール部は優勝をめざして開幕から力強いスタートを切りました。

初戦の大阪体育大学戦では、第1セットを23-25で落とす苦しい展開となりましたが、そこから3セットを連取し逆転勝利。翌日の関西学院大学戦も3-1で制し、2連勝を飾りました。第3戦の関西福祉大学戦ではフルセットの末に惜敗したものの、続く京都橘大学戦では接戦を制し、第5戦は無敗の京都産業大学との大一番。強敵の前に善戦するも惜しくも敗れ7勝2敗に。まだ優勝への可能性を残しながら迎えた19日の龍谷大学戦。全勝の同大を撃破する快挙を成し遂げましたが、続く20日の最終戦・関西大学戦では主力不在の影響もあり敗戦。8勝3敗の3位で今シーズンを終えました。優勝旗までわずかに手が届きませんでしたが、春季リーグからは順位を一つ上げました。

また、堀由佳選手（心理3年）がベストスコアラー賞を受賞し、個人の能力が高く評価されました。最後まで全力を尽くした選手たち。来季こそ、再びの頂点に向けてさらなる飛躍を誓います。



強化認定クラブ 硬式野球部

東生駒
キャンパス

黒星スタートから巻き返せず 1部昇格への道筋を探るシーズンに

8月31日から開幕した阪神大学野球連盟 2024年秋季リーグ戦。今季、本学は初戦の桃山学院大学戦を0-2で落とし、黒星発進となりました。続く摂南大学戦で3-0、4-1と連勝を飾り、巻き返しを図るも、その後の試合では攻撃陣があと一歩及ばず、勝ち星を積み重ねることができませんでした。最終的には4勝6敗の負け越しで、リーグ5位でシーズンを終える結果に。残念ながら、1部リーグ昇格という目標には届きませんでしたが、課題を洗い出し、来季へ向けて奮起することを皆で誓いました。

そんな中、山本隼也選手（法3年）（写真）がピッチャー部門でリーグベストナインに選出されるなど、明るいニュースも。個人の活躍が光るシーズンとなりました。



強化認定クラブ ラグビー部

東生駒
キャンパス

Bリーグ昇格入替戦に後一步届かず Cリーグ5位で今シーズンをフィニッシュ

初戦は合同C（京都薬科大学、京都工芸繊維大学、京都教育大学）を相手に112-0と圧倒的な勝利を飾って好スタートを切ると、勢いそのままに、2戦目の合同A（桃山学院大学、和歌山県立医科大学）、3戦目の兵庫県立大学にも大差をつけ、白星を重ねました。次の兵庫教育大学戦に不戦勝の後、残り試合で黒星を喫してしまい、最終的にC2リーグ3位。C1リーグ3位の神戸学院大学と5-6位決定戦を戦うことになりました。その順位決定戦では、圧倒的な攻撃力を見せつけ73-14で完勝。最終成績はリーグ5位（合同チーム含む16チーム中）で、昨シーズンから順位を一つ上げましたが、Bリーグ昇格をかけた上位4チームによる入れ替え戦にはあと一歩届きませんでした。

悲願のBリーグ昇格を目標に、来シーズンに向けたラグビー部の挑戦の日々が再び始まります。



注目の選手

レスリング創部以来初の女子選手 デビュー戦でいきなりの金メダル

矢野楓奈さん 法学部法学科1年

矢野さんがレスリングを始めたきっかけは5歳のとき、家の近くの教室に両親に連れられたことでした。10歳で強豪チームに移籍して、さらにレスリングにのめりこむように。中学では陸上部とレスリングに並行して取り組んでいたものの、「上をめざすなら競技人口が少ないレスリングのほうが有利」と、高校進学の際にレスリング1本に絞りました。

大学での練習は男子選手が相手。男子のパワーにスキルで対抗しているうちに、次第に体の強さも身についてきたように感じるとか。目下の目標は「より強い選手になるだけでなく、応援される存在になりたい」。同時に「女子の後輩と一緒に大会に出たい!」女子部員の入部を心待ちにしているそうです。



初の西日本学生選手権で頂点を極める快挙

クラブ・サークル活動紹介

クラブ・サークルを通じて、学内外で活躍する
帝塚山大学生の姿をお届けします。

大学開学 60 周年企画も 第 60 回帝塚山大学大学祭「虹色祭」を開催



**2024
11.16-17
SAT.-SUN.**



11月16日と17日の2日にわたり、東生駒キャンパスで第60回帝塚山大学「虹色祭」が開催されました。学生たちが時間をかけて準備したクラブやサークルによるステージ発表やイベント、さらに学科ごとの学修成果展示なども行われ、多くの来場者が学びとエンターテインメントが一体となった祭りを楽しみました。

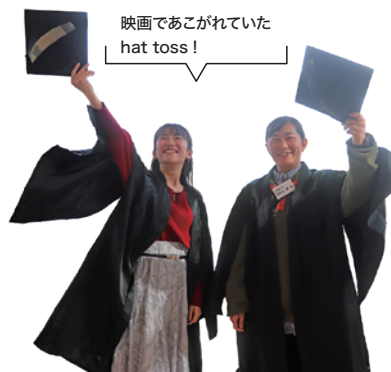
中央広場には、焼きそばやたこせんといった定番メニューをはじめ、揚げパンや酒かす入りスूपバスタなど、他では味わえないユニークな模擬店がずらりと並び、来場者はさまざまなグルメを堪能しました。法学部のアドバンスクラスは大学開学60周年を記念し、つきたての餅を販売。餅つきパフォーマンスには奥村由美子学長も参加し、学生たちとともに場を盛り上げました。

ステージでは、初日に兄弟ユニット「鈴木鈴木」のライブが行われ、SNSでも注目を集めるパフォーマンスに、会場は熱気に包まれました。2日目には、お笑いライブやダンスパフォーマンスが続きました。トリを飾る「楽笑

crew」のエネルギッシュなダンスに大きな歓声を送られ、会場のボルテージは最高潮に達しました。

2日間にわたる宴のフィナーレは恒例の打ち上げ花火です。音楽とともに放たれる花火が夜空を鮮やかに染め上げると、観客は光の軌跡を目で追いながら、歓声を上げたり、スマートフォンで撮影したりしていました。昨年に引き続いて点灯時期を「虹色祭」に合わせて早めたイルミネーションも彩りを添え、キャンパスを幻想的な光で包み込みました。

大学祭開催と同時に、さまざまなイベントも行われました。経済経営学部 ofゼミ研究報告会 **詳細は P.4** や留学生スピーチコンテストで、学生は日ごろの学びの成果を披露しました。また、教育学部が(一社)言の葉協会との産学連携で制作した紙芝居の贈呈式も行われました。さらに、17日には「まほろば」を会場にホームカミングパーティーが開催されました。多くの卒業生が母校に集い、懐かしい顔ぶれとの再会に、あちこちで笑顔が弾けました。



**2024.12.5
-2025.2.8
THU.-SAT.**

今年は学園前キャンパスで点灯式 冬のキャンパスをきらびやかに演出



学園前キャンパスはとの広場

12月5日、イルミネーションの点灯式が4年ぶりに学園前キャンパスで行われました。昨年は、学園前キャンパスのイルミネーションは、図書館前の通路のみの装飾でしたが、今年は16号館入口のデッキにもLEDの光が復活。華やかな輝きがキャンパスを彩りました。

当日は、奥村由美子学長がオープニングに挨拶した後、イルミネーション推進委員会の学生が今年の見どころを解説。MCによるカウントダウンが終わると同時に、キャンパスに一斉に明かりが灯りました。今回の点灯式では、SNSで募った学生のリクエスト曲をBGMに採用。学園会(学生会)からふるまわれた温かい飲み物やお菓子を手に、来場者は音楽と光のコラボレーションを楽しみました。

東生駒キャンパスでは、虹色祭の開催に合わせて11月16日からイルミネーションを点灯しました。両キャンパスとも、後期定期試験が終わる2月上旬まで、イルミネーションが冬の夜を美しく照らしました。



東生駒キャンパス時計台

「達成感を原動力に」人が集まる空間づくりに挑戦

現在、商業空間のデザイン会社で店舗設計を担当しています。この会社を志望したのは、人事担当の方の「風通しが良い職場」という言葉に共感したから。人が集まるにぎやかな空間づくりにかかわることができるだけでなく、営業や設計、デザインといったすべての仕事を経験できるジョブローテーションの仕組みも魅力的でした。主な業務は、設計担当者やお客様の要望から施工図を作成し、職人さんへ発注すること。お客様と直接話す機会も多く、営業センスも問われます。出張が多いので精神的にも肉体的にも大変ですが、完成した店舗を見ると疲れも吹っ飛ぶくらいの達成感があります。先輩のフォロー頼みを早く脱却して、一人で物件が担当できるようになるのが今の目標ですね。そのために、勉強を続ける毎日です。

大学では課題が多くて苦労したこともありましたが、友人と遅くまで残って作品づくりに没頭したのは良い思い出です。何より、建築だけでなくデザインやインテリアも同時に学べる学科だったのはデザインの幅を広げるのに役立ちました。特に、居住空間デザイン学科ではCAD2級の資格取得に力を入れていたので、そこで身につけたVectorWorksやCADのスキルは、今の仕事に大いに生かしています。

ゼミの先生が常々「遊びもデザインにつながる」と言っていたのですが、本当にそう思います。学生時代に遊びにも遊びにも全力投球したことが、今の自分につながっているのを実感します。社会人になったら苦手なことでも取り組みなくてはなりません。後輩の皆さんには、大学時代はどんなことでもチャレンジして、「得意なこと」を増やしてほしいです。



課題とともに苦労した同級生とは自然と仲良しに。オフでは野球や飲み会などをして楽しく過ごしたそう。当時の仲間とは今も親交が続いているという。

学びと遊びで広がるデザイン力 店舗設計の大きな武器に

株式会社バウハウス丸栄 勤務

山本 浩詩さん

現代生活学部居住空間デザイン学科 2023年3月卒業

卒業生紹介

成長し続けるIT業界で、 自分自身も進化し続けたい



株式会社バッファロー 勤務

谷川 紅葉さん

経営学部経営学科 2020年3月卒業

本当にいいと自信が持てる製品を顧客に届けたい

IT業界で法人営業を担当し、新製品の提案や導入サポートを行っています。導入後に業務効率が飛躍的に向上したという声を聞いたとき、やりがいと達成感を感じます。納品後のトラブル対応やお客様の予想外の要望に頭を悩ませる場面も少なくありませんが、自社製品を最も理解する立場として、あらゆる課題に誠実に向き合うようにしています。

この会社を志望したのは、自分が本当にいいと思えるものを提案しなかったから。技術が進化し続けるIT業界で自分の知識を磨いていきたいと思ったのも理由に挙げられます。大学では、経営学を学びつつ、高等学校の情報教員の免許取得もめざしていました。同時に、IT業界での就職を見据え、業界で役に立ちそうな関連資格の取得にも挑戦していました。生駒市との産学連携プロジェクトで飲食店の予約システムアプリの開発にも携わり、学外でその成果を発表する機会にも恵まれました。振り返れば、大学時代の経験が今の仕事へとつながっているのを実感します。

社会人になって、はや5年。異動した上司の職務を継ぎ、今はとある国家プロジェクトにかかわっています。思うように進まぬことも多いですが、社会を豊かにするという使命感を胸に、全力で取り組む毎日です。学業とアルバイトの両立に追われる大学時代でしたが、一番に思い出されるのは、中庭のベンチで友人と他愛もない話をしていた時間です。社会人になると、大学生がまぶしく思えるときが必ず訪れます。だからこそ、後輩の皆さんには瞬間を存分に楽しんでほしいと思います。どんな経験も、やがて自分を支える力になるはずです。



学術連携協定を結ぶ多摩大学（東京都）で「予約システムアプリ」について発表する谷川さん。生駒市で毎年秋に開催された「いまこいバル」で活用された。「いまこいバル」は、近鉄生駒駅や東生駒駅周辺を中心とした50店以上の飲食店が参加する恒例の地域活性化イベント。谷川さんは、メニューの売り切れを確認できるアプリを開発し、毎年ブラッシュアップ。その成果を学内外の報告会で発表した。



地域連携 × 大学連携

本学は、「実学の帝塚山大学」をスローガンに掲げ、自治体、企業、研究機関などと連携して地域や社会の課題解決に取り組む「プロジェクト型学習」に注力しています。

奈良県を中心に各所で展開する地域連携、産官学連携のほか、学術協定をもとにした大学連携、総合学園の強みを生かした帝塚山学園内での教育連携など、多種多様な協働事業を通じて、学生は実践力とともに「時代を生き抜く力」と「変化に対応する力」を身につけます。



子どもたちの学びを応援！団地で広がる新たなつながり 「DANCHIつながる一む」に学生が参加



学園前駅近くのUR鶴舞団地で、8月4日から8日にかけて「DANCHIつながる一む」が開催されました。これは、団地の集会所を活用し、夏休み中の子どもたちのために自習室や講座、ワークショップを提供する取り組みです。

UR都市機構と連携協定を結ぶ本学は、現代生活学部 食物栄養学科・居住空間デザイン学科、そして法学部法学科の学生が参加し、それぞれの専門性を生かしたプログラムを実施。多くの親子連れで鶴舞団地の集会所にぎわいました。

食物栄養学科の学生は、「熱中症予防講座」を担当。寸劇やクイズを交えながら、熱中症のリスクをわかりやすく解説しました。**【詳細は P.7】**

居住空間デザイン学科の学生は、うちわや扇子にマーブリングで彩色するワークショップを行い、参加者は鮮やかな模様が広がるオリジナル作品を作りました。法学部の学生は、奈良西警察署と協力し「交通安全教室」を開催。交通ルールや信号機の意味、安全確認の重要性をクイズ形式で教えました。最後には模擬横断歩道を子

UR都市機構
×
現代生活学部居住空間デザイン学科
×
法学部法学科

どもたちが手を挙げて渡り、横断時の安全確認を行いました。

地域とつながる今回の活動が、団地の中に新たな交流を生み、より豊かな地域へと発展することを期待しています。



(写真左)鮮やかな色合いのマーブリングに満足そうな表情を見せる。(写真右)法学部による交通安全教室。



女性への暴力の根絶をめざして 生駒市と協働でパープルリボンキャンペーンで啓発展示

「パープルリボンキャンペーン」は女性に対する暴力の根絶に向け、11月12日から25日にかけて行われる啓発運動です。内閣府が提唱する同運動は、多くの自治体や企業が啓発活動を展開することで、社会全体での認知度アップに努めています。

今年、法学部法学科の末吉ゼミの学生と、文学部日本文化学科で司書課程を履修する学生が、生駒市主催の同キャンペーンに関するパネル展

示（於：生駒市コミュニティセンター 11月9日～25日）に取り組みました。

末吉ゼミの学生は毎年新作を発表している「ジェンダーギャップを考えるカルタ」をもとに、ジェンダー問題を取り上げるパネルを制作しました。日本文化学科の学生は関連する図書を選書し、POPやキャプションを用いて本の内容をわかりやすく紹介しました。

学生は「センシティブなテーマだけに正しく

理解してもらうことが大切だと感じ、真剣に取り組みました」と話し、展示が多くの人々に注目されたことに手ごたえを感じていました。さらに、イベントで配布されるパープルリボン作りにもボランティアとして参加し、同キャンペーンの運営を支えました。

今回の活動を通じて、学生たちは社会課題と向き合い、それを社会に伝える技術を磨くことができました。



(写真上)思いが少しでも届くように心を込めてパープルリボンを作る。(写真左下)日本文化学科による関連書籍紹介。目を引くイラストとわかりやすい紹介文をこころがけた。(写真右下)法学部によるジェンダーギャップを考えるカルタの展示。



世界へ届け！ 奈良県の食の魅力でいっぱいの 「万博BENTO」

奈良県
×
奈良井上
×
現代生活学部食物栄養学科

2025年4月に開幕する大阪・関西万博。「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、大阪・夢洲で開催されます。その関西パビリオンで提供される「万博BENTO」のメニュー開発に、現代生活学部食物栄養学科の学生が携わっています。この「万博BENTO」は、日本の弁当文化を世界に紹介することを目的に、奈良県内の4大学（帝塚山大学、畿央大学、近畿大学、奈良女子大学）の管理栄養士養成課程の学生で構成されたサークル「ヘルスチーム奈良」に奈良県が依頼したものです。

学生たちは、調理を担当する県内の日本料理店「奈良井上」の指導を受け、弁当に入れる9品の試作を重ね、大和野菜のほか、奈良漬や三輪そうめんなど奈良を代表する食材を用いて奈良の魅力が詰まった弁当を作り上げました。2024年10月には奈良公園で開催された「C'festa」やコープ七条（奈良市七条西町）で行われた「食育フェスタ」などのイベントでプレ販売を実施しました。試食者へのアンケート結果をもとに、本番に向けてさらにメニューを改良していく予定です。

また、この弁当は日本テレビの「ZIP!」の「旅するエプロン」でも取材されました。大学に訪れたタレントの伊藤菜さんと池田航さんが、外国人でも食べやすいメイン料理とデザートを提案。奈良の食文化を取り入れながらも新しい発想の一品に、管理栄養士をめざす学生たちも感嘆していました。



(写真上) 食育フェスタでの販売の様子
(写真下) 万博BENTOプレ販売版



学生が挑む！ サステナブルな化粧品什器デザイン

小倉美術印刷株式会社
×
現代生活学部居住空間デザイン学科

現代生活学部 居住空間デザイン学科の学生が、パッケージや什器の企画・製造販売を手掛ける小倉美術印刷株式会社(大阪府八尾市)の依頼を受け、化粧品用の紙製什器のデザインに取り組みました。

開発のテーマは「サステナブル」。素材には紙を使用し、環境に配慮した新しい什器の提案です。学生たちはデパートやドラッグストアの売り場を調査した後、自分たちの構想をスケッチにまとめ、小倉美術印刷の担当者にプレゼン。選考を経て選ばれた案をスタディ模型に仕上げ、再度プレゼンテーショ

ンを行いました。最終的に2案が採用され、ブラッシュアップされた什器が、11月27日から29日に東京産業貿易センターで開催された「第53回 日本プロモーション・マーケティングショー2024」に出品されました。

展示会では、「目を引くデザイン」「新しい発想の什器」などの高い評価を来場者から頂きました。学生たちは今回の協働を通じて、什器にはデザイン性だけでなく、補充や組み立てのしやすさといった実用性や機能性も求められることを学びました。今回

の経験は、プロのデザイナーに必要な視点を養う貴重な機会となりました。



(写真) 化粧什器

大学 連携

地域でのプロジェクト活動成果を披露 「第16回多摩大学アクティブ・ラーニング発表祭」で他大学と学術交流

12月14日、「多摩大学アクティブ・ラーニング発表祭」が多摩大学(東京都多摩市)で開催され、本学からは法学部法学科と教育学部こども教育学科の2チームが参加しました。この発表祭は、本学と「学術交流に関する包括協定」を締結する多摩大学が、地域でのプロジェクト活動の成果を共有することを目的として毎年開催しているもので、今年で16回目を迎えます。多摩大学とその系列高校2校に加え、本学と東京経済大学から27件の発表がありました。

大学や高校での学びをテーマにした多彩な発表が行われる中、法学部法学科の浅野百花さんと森口一馬さん(ともに4年)が「法学部における社会貢献活動の紹介 帝塚山小学校との学園内連携を中心に」をテーマに、小学校で行っている「交通安全教室」や「SNSのリスク講座」などについて発表。難しい内容を子どもが楽しく学べるような

講座の工夫や運営方法などを紹介しました。教育学部こども教育学科は、清原武尊さんと平井彩楽さん(ともに4年)が「第1回てづかのこどもフェス」プロジェクト参画から得たもの」のをテーマに、大学開学60年記念事業として実施した地域の親子向けイベントの運営報告を行いました。このイベントには、小学校教諭や幼稚園教諭、保育士などをめざす学生が、さまざまなプログラムの企画と運営にかかわり、実践力を養いつつ地域社会とのつながりを深めました。【詳細は P.23】

いずれの発表も、大学での学びが地域の課題解決にどのように結びつくのかを示し、プロジェクトを通じて成長した学生の姿が感じ取れる内容でした。

2月22日には、多摩大学と大阪電気通信大学から発表チームを招いて、本学主催の「実践学生発表祭」を東生駒キャンパスで開催しました。



(写真左) 法学部法学科の発表。
(写真中) 教育学部こども教育学科の発表。
(写真右) 出場学生と引率教員で記念撮影。

決起大会

キャリアセンター前 12:50 集合



Tezukayama Career Support

就職支援の取組み

キャリアセンターでは、学生1人ひとりが「実学教育」を通じて主体的に行動し、地域や社会に貢献できる人材の育成をめざしています。

学生が自らの意思で進路選択・就職決定ができるよう多種多様なサポートプログラムを実施するとともに、個人の希望やニーズや就職活動の進捗状況に合わせてきめ細かい支援を行っています。

7日間で140社もの優良企業が集う学内合同企業説明会 決起大会では就活成功を祈願



学内合同企業説明会が2月12日から21日までの7日間にわたり開催され、東生駒キャンパスの「まほろば」には、幅広い業界から約140社の優良企業が集結しました。本学の学生の採用に積極的な企業や団体が参加するため、この説明会を通じて毎年多くの学生が内定を獲得しています。企業ブースでは、人事担当者の説明に熱心に耳を傾け、真剣な表情でメモを取る学生の姿が多く見られました。

また、2月12日の初日の午前中には「決起大会」を開催しました。この大会は、合同企業説明会を前に就職活動への意識を全学で高めることを目的としています。当日は、就職情報社から就職活動の進め方についての講演があり、学部長や学科長からの激励の後、飛世昭裕副学長の勝関(どき)の声で締めくくられました。そして、就職活動の成功を願い、縁起物の「勝ちグミ」のお菓子和オリジナルメモ帳が一人ひとりに配られました。

学内合同企業説明会参加企業(2026年卒対象)実績一覧(一部抜粋)

アラマークユニフォームサービスジャパン(株)/いすゞ自動車近畿(株)/(一社)日本自動車連盟(JAF) 関西本部/大阪ガスセキュリティサービス(株)/大阪シティ信用金庫/大阪府警察/株式会社田工務店/株式会社近鉄・都ホテルズ/株式会社近鉄リテリング/株式会社ベリサーチセンター/株式会社ジェイアール西日本総合ビルサービス/株式会社ダイハツビジネスサポートセンター/株式会社トヨタレンタリース大阪/株式会社南海国際旅行/株式会社南都銀行/株式会社ハウハウス丸栄/株式会社LITALICO/株式会社ロマンズ小杉/京セラドキュメントソリューションズ(株)/京都中央信用金庫/近畿日本鉄道(株)/近鉄ファシリティー(株)/近鉄不動産(株)/近鉄保険サービス(株)/グリココミュニケーション(株)/大阪ホテルズ&リゾーツ(株)/高圧ガス工業(株)/江綿(株)/サントリービバレッジソリューション(株)/市民生活協同組合ならこぽ/シノブフーズ(株)/シャープマーケティングジャパン(株)/杉本商事(株)/住友不動産販売(株)/積水ハウス不動産関西(株)/高松建設(株)/ダイワボウ情報システム(株)/大和リース(株)(大和ハウスグループ)/ナブコ(株)/奈良県警察/奈良県広域消防組合消防本部/奈良県農業協同組合/奈良市役所/奈良信用金庫/日新火災海上保険(株)/日本生命保険相互会社/野村證券(株)/パナソニックリビング近畿(株)/フランスベッド(株)/文化シャッター(株)/丸二倉庫グループ(株)(マルニコーポレーション)/大和信用金庫 ほか

もう一度スケジュールを見直そう 3年生から本格化する就職活動

3年生

ゼミに入って卒業論文に向けた準備。
自己分析や業界研究など就職活動も本格化。

- ゼミで研究を進める
- 免許や資格を取得する
- 就職活動の下準備を進める
(ガイダンスに参加する、
学生生活の記録を整理する etc)
- 後輩を指導する
(クラブ、サークル etc)
- 就職活動を本格化させる
(説明会に参加する、採用選考へ応募する)

4年生

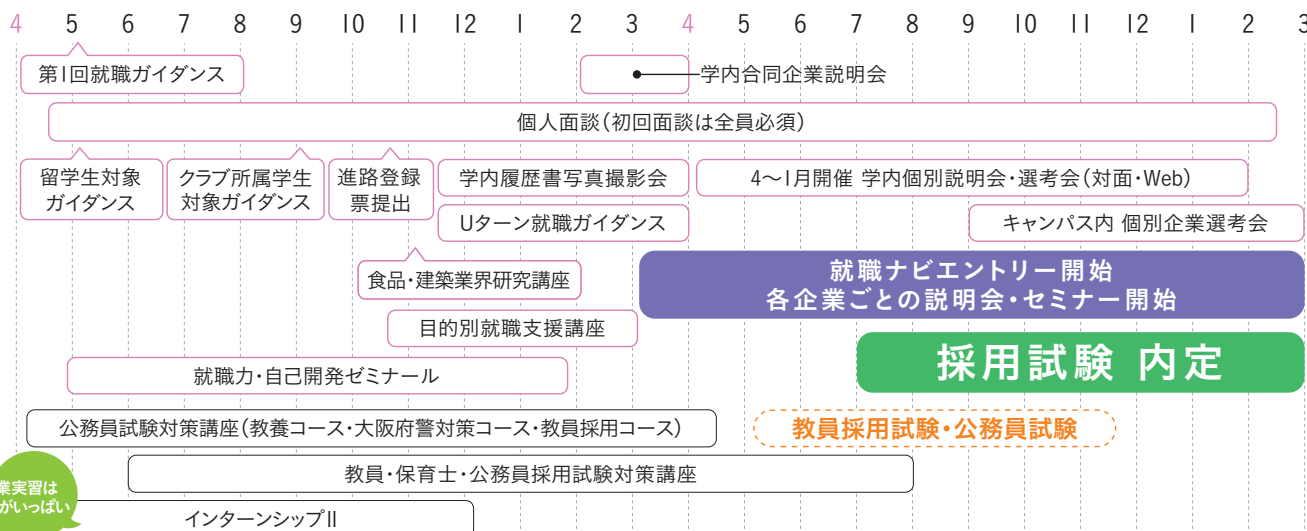
面接や採用試験の傍ら、卒業論文の作成。
うまくいけば後半は思い出作りに羽を伸ばせる。

- 企業の採用試験を受ける
- 卒業論文を書く
- 入社までに必要な準備を進める
(パソコン、資格、語学 etc)
- 卒業イベントを企画する、参加する

※内定取得した学生は
特に『後期履修科目』は
余裕を持って登録しよう
←留年すると内定も危険

3年生

4年生



企業実習は
発見がいっぱい

今年も優良企業への就職多数！ 早めのキャリアセンター利用が内定のカギに

民間企業も公務員も、希望の進路で内定を獲得



大阪市役所（行政職）

文学部
日本文化学科4年
新井 翼さん



（株）南都銀行

文学部
日本文化学科4年
座波 拓斗さん



和歌山県庁（行政職）

経済経営学部
経済経営学科4年
岡室 さくらさん



大阪シティ信用金庫

経済経営学部
経済経営学科4年
尾松 真帆さん



（株）村田製作所

経済経営学部
経済経営学科4年
赤川 絵梨さん



伊賀市役所

法学部
法学科4年
服部 真里奈さん



香芝市役所

法学部
法学科4年
大神 友花さん



奈良県警察本部

法学部
法学科4年
秋田 想一郎さん



（株）京都銀行

法学部
法学科4年
浅野 宝花さん



（株）りそな銀行

心理学部
心理学科4年
野崎 綾香さん



奈良県教育委員会（栄養教諭）

現代生活学部
食物栄養学科4年
丸谷 香奈さん



（公）天理よろづ相談所

現代生活学部
食物栄養学科4年
植田 百香さん



（独）国立病院機構 近畿グループ

現代生活学部
食物栄養学科4年
仲田 遥空さん



（株）ノムラメディアス

現代生活学部
居住空間デザイン学科4年
汾陽 優莉奈さん



生和コーポレーション株

現代生活学部
居住空間デザイン学科4年
鬼塚 愛実さん



高松建設株

現代生活学部
居住空間デザイン学科4年
木村 翔乙さん



大阪府教育委員会（小学校教諭）

教育学部
こども教育学科4年
清原 武尊さん



三重県教育委員会（小学校教諭）

教育学部
こども教育学科4年
大崎 ちひろさん



東京都教育委員会（小学校教諭）

教育学部
こども教育学科4年
山内 累生さん



奈良県葛城市（保育士・幼稚園教諭）

教育学部
こども教育学科4年
中井 梓さん



大阪府堺市（保育教諭）

教育学部
こども教育学科4年
平山 結衣さん

2025年3月卒業生 主な内定先

業種内50音順
2025年2月現在

【民間企業】

旭情報サービス（株）／アラマークユニフォームサービスジャパン（株）／（医）医誠会／（医）徳州会 宇治徳州会病院／NCS & A（株）／NTN（株）／エームサービス（株）／大阪ガスセキュリティサービス（株）／大阪シティ信用金庫／カネ美食品（株）／関電ファシリティーズ（株）／（株）鍛冶田工務店／（株）かんば生命保険／（株）京都銀行／（株）近鉄・都ホテルズ／（株）きんでん／（株）コスモス薬品／（株）ジェイアール西日本ホテル開発／（株）綜企画設計／（株）大洋工芸／（株）ダイハツビジネスサポートセンター／（株）南都銀行／（株）ニトリ／（株）福井銀行／（株）野村メディアス／（株）村田製作所／（株）りそな銀行／（株）LITALICO／（株）良品計画／キャンノンシステムアンドサポート（株）／京都生活協同組合／近鉄ファシリティーズ（株）／近鉄不動産（株）／グリコマニュファクチャリングジャパン（株）／高圧ガス工業（株）／コーナン商事（株）／江綿（株）／（公）天理よろづ相談所病院／沢井製薬（株）／シノプフーズ（株）／（社）福なみはや福祉会／シャープマーケティングジャパン（株）／住友林業ホームテック（株）／生和コーポレーション（株）／総合警備保障（株）／大和リース（株）／高松建設（株）／タマホーム（株）／中設エンジ（株）／（独）国立病院機構 近畿グループ／中本ボックス（株）／ナブコドア（株）／奈良県土地改良事業団体連合会／奈良県農業協同組合（JAならけん）／奈良信用金庫／奈良中央信用金庫／ニコニコのり（株）／日清医療食品（株）／日本郵便（株）／西日本高速道路パトロール関西（株）／日鉄パイプライン&エンジニアリング／パナソニックエイジフリー（株）／パナソニックインフォメーションシステムズ（株）／阪神高速パトロール（株）／富士ソフト（株）／フランスベッド（株）／文化シャッター（株）／ホテルベルクラシック東京／リゾートトラスト（株）／りんかい日産建設（株）／ロイヤルホームセンター（株） ほか

【公務】

伊賀市役所（行政職）／大阪市役所（行政職）／香芝市役所（行政職）／甲賀市役所（行政職）／奈良市役所（事務職）／和歌山県庁（行政職）／白山市役所（司書）／警視庁／大阪府警察本部／京都府警察本部／滋賀県警察本部／奈良県警察本部／東京消防庁／奈良県広域消防組合／防衛省 陸上自衛隊 ほか

【教育】

奈良県教育委員会（栄養教諭）／愛知県教育委員会／大阪府教育委員会／大阪府教育委員会／堺市教育委員会／静岡県教育委員会／静岡県教育委員会／島根県教育委員会／千葉県教育委員会／東京都教育委員会／徳島県教育委員会／鳥取県教育委員会／長崎県教育委員会／奈良県教育委員会／福岡県教育委員会／横浜市教育委員会／奈良県生駒市／大阪市／大阪府寝屋川市／大阪府枚方市／香川県観音寺市／奈良県香芝市／奈良県橿原市／奈良県葛城市／奈良県桜井市／神奈川県川崎市／京都府木津川市／千葉県浦安市 ほか

学習行動調査からみる帝塚山大学生

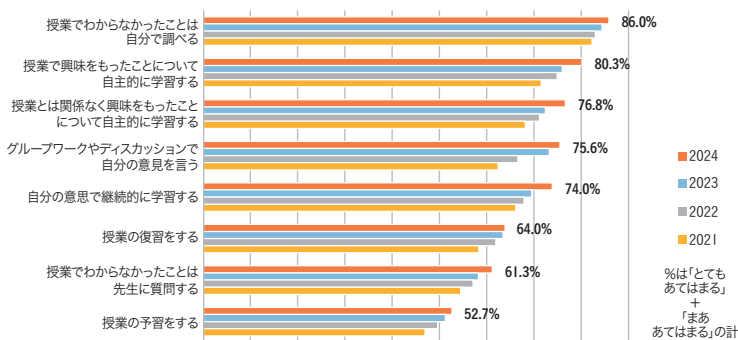
帝塚山大学では、入学から卒業までの大学生活4年間を通して、学生を対象とした各種アンケートを定期的に実施し、その結果を教育活動・学生支援の改善に生かすべくIRに取り組んでいます。その取り組みのひとつとして、「学習行動調査」では、在学生を対象に、毎年度、前期・後期それぞれの履修登録期間中、学習経験や学習時間、学習意欲、大学の学びで身についた力・知識などを調査しています。今回は、この「学習行動調査」の結果を分析し、導き出された課題を整理することで、今後の本学の教育内容・方法や学生支援の改善に役立てていきます。

今回、分析結果を報告する学習行動調査は、2024年度前期・後期それぞれの履修登録期間中に実施しました。学生は、2023年度後期の学習行動を2024年度前期に、2024年度前期の学習行動を同年後期に振り返り回答しています。昨年度までの3年間におきましては、新型コロナウイルス感染症の影響を色濃く受けていたため、単純に比較できるものではありませんが、学生の学習行動の変容を読み解いてみたいと思います。

授業への取組姿勢・態度の全項目上昇 学生の学習意欲向上

前期履修登録時の調査において、「大学の授業に普段どのように取り組んでいるか」を選択形式で尋ねたところ、いずれの学習行動においても「とてもあてはまる」「まああてはまる」と回答した学生の割合の合計は、この4年間で最も高い結果となりました（図1）。項目別にみると、上位3位の項目は「授業でわからなかったことは自分で調べる」（86.0%）、「授業で興味をもったことについて自主的に学習する」（80.3%）、「授業で興味をもったことについて自主的に学習する」（80.3%）、「授業とは関係なく興味をもったことについて自主的に学習する」（80.3%）、「授業とは関係なく興味をもったことについて自主的に学習する」（80.3%）

図1 授業への取組姿勢・態度（複数選択可）



前期「学習行動調査」

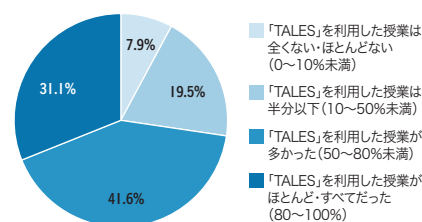
に学習する（76.8%）となり、1位、2位については昨年から変動はありませんでしたが、3位は昨年の「グループワークやディスカッションで自分の意見を言う」（75.6%）と入れ替わる結果となりました。順位の入れ替わりはあったものの、全項目において数

値の上昇がみられる結果となりました。帝塚山大学では、大学が定める「カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）」において、「プロジェクト型学習」を広く推進することを定めています。学生は、アクティブ・ラーニング形式の授業によって「本物」に触れ、地域の企業や自治体、教育・研究機関などと連携して地域や社会の課題解決に取り組んでいます。この経験を積むことで、各自の自発的な学びが促進されている可能性があります。

本学独自の学習支援システム「TALES」の活用が年々進む

後期履修登録時の調査において、eラーニング機能を搭載した本学独自の学習支援システム「TALES（Tezukayama Active Learning Education Square）」を利用した授業（予習・復習含む）の割合を尋ねたところ、「TALES」を利用した授業が「多かった（50〜80%未満）」（ほとんど・すべてだった（80〜100%）」と回答した割合の合計は7割超となり、昨年度よりも増加しました（図2）。また、授業で「どのように「TALES」を利用したか」を尋ねたところ、最も多

図2 「TALES」を利用した授業の割合（ひとつ選択）



授業での「TALES」の利用法（複数選択可）



後期「学習行動調査」

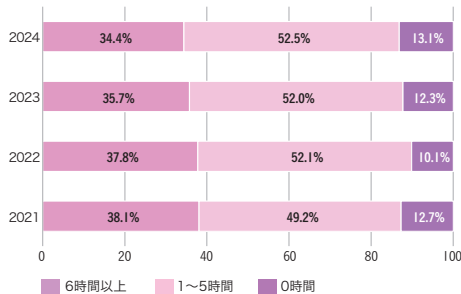
かったのは「課題やレポートの提出」（72.0%）、次いで「小テストの受験」（63.3%）、「授業の復習」（51.9%）の順となりました。本学の学習支援システム「TALES」は、講義資料の配信や、小テストの出席、レポート提出などが可能なほか、学生の自学自習ツールとしてだけでなく、アクティブ・ラーニング形式の授業にも活用されています。今回の数値は、年々「TALES」の積極的な活用が進んでおり、本学学生にとって「TALES」が、より身近な学習ツールとなっていることを表しているように思います。今後も学生の学習環境を

※ IR (=Institutional Research インスティテュショナル・リサーチ) とは、大学の教育・研究などに関する情報の収集・分析を通して、大学の経営に関する意思決定や、教育の改善のための計画策定などの支援を行うことを指します。

『大学通信帝塚山』に毎号掲載している本頁「IRレポート」は大学ホームページでもコンテンツとしてまとめています。

(URL)
https://www.tezukayama-u.ac.jp/disclosure/ir/



図3 授業開講期間中の1週間あたりの
授業時間外の学習時間(ひとつ選択)

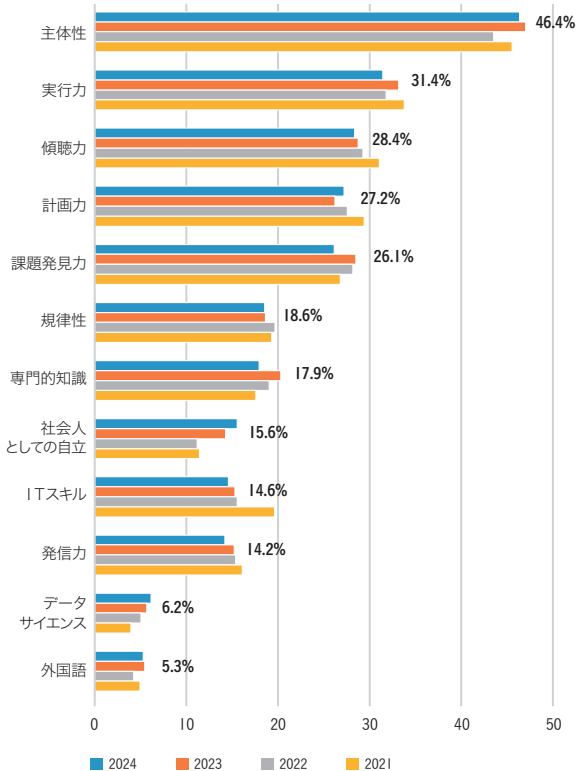
後期「学習行動調査」

整え、支援していきたいと考えます。

授業時間「外」の学習時間は減少傾向

後期履修登録時の調査において、「授業開講期間中1週間あたりの授業時間外の学習時間」を尋ねたところ、「6時間以上」と回答した学生の割合は僅かながら減少しており、最も多かった層は「1～5時間」(52・5%)の学生でした(図3)。学習時間については全国的に少ないことが言われ、本学でも同様に課題となっていますが、前期履修登録時の調査で学生の学習意欲向上の傾向が見られていること、また、同調査で「授業とは関係なく興味をもったことについて自主的に学習する」を選んだ学生の割合が昨年度よりも増えていることから、今後は改善の可能性も考えられます。引き続き、注視していきたいと思えます。

図4 これまで身についたと思う「力」や「知識」(複数選択可)



後期「学習行動調査」

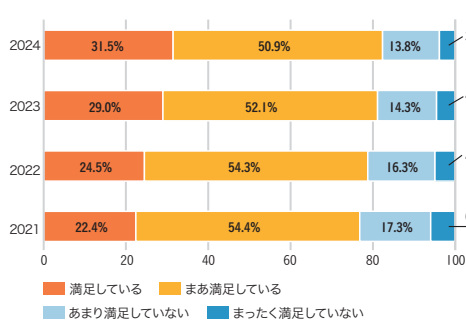
学生の成長実感、上位3項目は昨年と同じ

後期履修登録時の調査において、「これまで身についたと思う力や知識」を尋ねたところ、上位3項目は「主体性」(46・4%)、「実行力」(31・4%)、「傾聴力」(28・4%)の順で昨年と同じ結果となりました(図4)。一方、数値が低かったものは、「外国語」(5・3%)、「データサイエンス」(6・2%)、「発信力」(14・2%)で、3位は昨年の「社会人としての自立」(15・6%)と入れ替わりました。また、「外国語」は昨年と比べて数値が下がる結果となりました。上位3項目は昨年よりも数値の減少が見られますが、その要因が何かについては、複数の測定指標を用いて多角的に検証する必要があります。

帝塚山大学への満足度は、今年も上昇

後期履修登録時の調査において、「帝塚山大学に満足しているか」を尋ねたところ、「満足している」「まあ満足している」と回答した割合の合計は8割を超え、この4年間で最も高い数値となりました(図5)。「コロナ禍を経て、通常の学習環境における学生生活を送ることができていることが、満足度向上の一因であると考えられます。今後は、学生自身が身に着いたと思う「力」や「知識」の数値も連動して向上していくことを期待したいと思います。

図5 帝塚山大学への満足度(ひとつ選択)



後期「学習行動調査」

の改善・充実に取り組んでいきたいと思えます。

最後になりましたが、10月に開催の教育懇談会におきまして、参加された父母等の方々に対象としたアンケートを実施いたしました。ご協力いただきました皆様に深く感謝いたします。ありがとうございました。

2024年度学習行動調査実施概要

- 調査期間 前期:2024年3月28日～4月14日
後期:2024年9月19日～10月3日
 - 対象 前期:新2年生以上の在学生
後期:在学生全員
 - 調査方法 webによる各期の授業科目の履修登録画面にアンケート設問が自動表示され、その場で入力
 - 回答者数・率 前期:2,379名(男子1,124名・女子1,255名)、97.5%
後期:2,469名(男子1,148名・女子1,321名)、88.0%
- ※IRレポートには含まれていませんが、学習行動調査は大学院生にも実施しています。
- ※前期と後期では設問が異なります。
- ※調査結果の比率は小数点以下第2位を四捨五入して算出しているため、内訳の計と合計が一致しない場合があります。

阿武山古墳 鎌足の墓の可能性 さらに高まる 副葬品の冠に「大織冠」の特徴が判明 復元カラー写真を初公開

牟田口章人客員教授



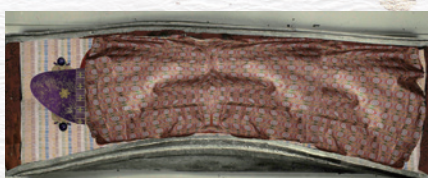
CGによる大織冠復元

牟田口章人客員教授が、大阪府高槻市の阿武山古墳から出土した冠が、大化改新後に定められた冠位制度の最高位である「大織冠」の特徴を示すことを、画像解析によって明らかにしました。「大織冠」は歴史上、日本では藤原鎌足（614―669）にのみ与えられた冠であることから、この研究結果は被葬者が鎌足である可能性を強く示唆すると言えます。

阿武山古墳は、1934年に京都帝国大学（現在の京都大学）の地震観測所の掘削工事で発見されました。そこで見つかった高貴な人物にのみ使われた特別な冠、※¹夾紵棺（きょうちやくかん）の中には男性の遺骨とともにガラス製の玉枕や冠帽の金糸が残っていましたが、本格的な調査は行わ

れないまま埋め戻されてしまったのです。1982年、当時民間放送の報道記者だった牟田口客員教授が、発掘時のX線写真の原版を観測所の所長室で発見したことが契機となり、京都大学に研究会が設けられました。その後、痛んでいたフィルムが修復されて、1987年には冠の生地地の刺繍に金糸が使われていることも分かり、それにより被葬者は鎌足である可能性が高いと考えられるようになりました。

今回、牟田口客員教授はX線写真をデジタル画像化して解析を進め、約2cm四方の部分に複数の金糸が折り返して密に並ぶ箇所を確認。金糸の構造が綴織（つづれおり）の特徴と一致することが判明しました。また、直径6〜8cmの六弁花を羅地に縫い付けたアップリケらしきものの存在も確認されました。『日本書紀』によると、大織冠は織物で綴織の一種であったとされるため、今回の解析結果から被葬者が鎌足である可能性がより確実なものになったと考えられます。さらに、棺内からは、大化の冠位制度で定められたもう一つの冠である鑑冠（つばこうぶり）の断片※²と思しき漆で固めた羅の布片も確認されま



被葬者の埋葬状況復元



満員の聴衆を前に解説する牟田口客員教授

（※1）麻布を漆で貼り重ねた棺、古墳時代の終りごろ（7世紀）にみられた。（※2）からみ織りで織った目の粗い絹織物。

した。棺には、大織冠と鑑冠という冠位制度上の重要な冠がともに副葬されていた可能性が高いと推測されます。

11月2日に本学東生駒キャンパスで行われた公開講座「奈良学への招待Ⅺ 藤原鎌足の大織冠に迫る―阿武山古墳棺内写真分析から―」において、牟田口客員教授はCGで再現した「大織冠」のカラー写真を初公開しました。また、2025年2月11日に行われた開学60周年記念の公開講座「大織冠・藤原鎌足に迫る」発掘から90年史跡・阿武山古墳」では、大織冠の復元画像に加え、鎌足と考えられる被葬者の埋葬手順の画像についても発表しました。詰めかけた考古学ファンは、90年を経て明らかになった阿武山古墳の新たな真実に触れ、今後のさらなる研究の進展に期待を寄せていました。

2024年度前期 教職員教育功績表彰

9月13日、東生駒キャンパスで教職員教育功績表彰式を行いました。

「教職員教育功績表彰」とは、本学の教職員の意欲向上と本学の教育の質の向上と教育実践活動の活性化を図ることを目的として定めた「帝塚山大学教職員教育功績表彰規程」に基づき、教育実践に顕著な成果をあげた教職員に対して、その功績を表彰する制度です。

2024年度前期においては、現代生活学部居住空間デザイン学科の深谷友貴准教授が表彰され、奥村由美子学長から表彰状と記念品が授与されました。深谷准教授は、卓越したデザイン力とデジタルファブリケーション技術で、学生のプロダクトデザイン能力を向上させています。2023年度の「京都デザイン賞」では2名の学生を入賞させたほか、自身も各種コンテストにおいて数々の入賞を果たしました。

本学では今後もこのように教職員への顕彰を続け、意識を向上させることで、よりよい教育を実践していくよう努めます。



※本表彰式の後に行われた2024年度の「京都デザイン賞」でも再び学生を入賞に導き、同時にプロダクトデザイン・クラフト・雑貨デザイン部門では自身が入賞した。

詳細は P.8

奈良学への招待



昨秋、附属博物館で開催した特別展示「當麻寺と中将姫」では、最後のコーナーを「當麻寺護念院と練供養」その近代、そして今」としました。学生たちのプロジェクト活動をとりあげるとともに、百年余り前をしるぶ資料として、最近購入の絵葉書を並べました。

大正七年（一九一八）に當麻寺を訪れた和辻哲郎は、『古寺巡礼』に「絵葉書を買って見ると「練り供養米迎の実況」というのがあった」と記しています。展示品にも同様の記載が見つかりました。

中将姫の像を載せた蓮台を捧げる観音菩薩を写す一枚（右）は、練供養の際に楽屋となる、護念院客殿での撮影と判明しました。メインキャストの三菩薩が写る一枚（左）は、娑婆堂で撮影したのではと推測されました。プロジェクトの学生たちによる、ささやかな新知見です。

絵葉書を見つめる——當麻寺練供養——

文学部

日本文化学科 教授 杉崎 貴英

りました。

菩薩の姿を大きく写したものが二枚あります（写真）。行事のひとつまではなく、ポーズをとってもらって撮影したものでしょう。

プロジェクトの学生たちに見せたところ、こんな声が上がりました。「これ、當麻寺のどこで撮ったんだろう？」

所蔵品紹介

筒井順興書状

今回紹介するのは、筒井順興（一四八四年？～一五三五年）が東大寺法華堂（三月堂）の僧たちに出した書状です。順興は織田信長と羽柴秀吉に仕えた筒井順慶（一五四九年～一五八四年）の祖父にあたる人物で、大和国内で勢力を広げ、戦国大名筒井氏の基盤を築いた名将でした。

本文書には、筒井順興が出陣するにあたり、法華堂の僧たちが「八幡宮執金剛神御宝前」で祈祷を実施したことに対するお礼が述べられています。「八幡宮」とは東大寺の鎮守社だった手向山八幡宮で、

「執金剛神」は現在法華堂の秘仏として伝えられている執金剛神像（国宝）のことを指していると考えられます。

この執金剛神像には有名な伝説があります。それは、平将門の乱（九三九年～九四〇年）が起こったとき、執金剛神像の髻の元結の右端が蜂となつて東国に飛んでいき、将門を刺して乱を平定した、というものです。おそらく筒井順興はこの伝説にあやかって、自身が敵を破り勝利を得られるよう、執金剛神像の前で祈祷するよう依頼したのでしょう。

文学部

日本文化学科 准教授 花田 卓司

■ 本学教員の執筆図書紹介 ■

執筆図書一覧

本学教員の著作は、教育研究活動成果の公開を目的として、東生駒キャンパス図書館本館と学園前キャンパス図書館分館の「業績図書」コーナーに配架されています。

(発行年順)

教員名	所属／役職	分類	書籍名	出版社	発行年月	価格
西連寺 匠	文学部日本文化学科／講師	分担執筆	ぜんこく縦断！郷土玩具展：令和4年度秋季企画展	泉佐野市立歴史館 いずみさの	2022年9月	
城田 直彦	教育学部こども教育学科／教授	分担執筆	小学算数1年①・②、2年上・下、3年上・下、4年上・下、5年、6年〔令和6年度版〕 〔文部科学省検定済教科書〕	日本文教出版	2024年2月 2024年3月	1,000円(税込)～
松浪 軌道	教育学部こども教育学科／准教授	分担執筆	小学社会3・4・5・6〔令和6年度版〕〔文部科学省検定済教科書〕 小学社会3年・4年・5年・6年 教師用指導書 研究編	日本文教出版	2024年2月 2024年6月	1,290円(税込)～
谷 美奈	全学教育開発センター／教授	分担執筆	共生社会の大学教育：コミュニケーション実践力の育成に向けて	東信堂	2024年3月	2,400円＋税
新宅 賀洋	現代生活学部食物栄養学科／教授	分担執筆	豆類の百科事典	朝倉書店	2024年4月	13,000円＋税
阿部 咲子	現代生活学部食物栄養学科／准教授	分担執筆	生活期におけるリハビリテーション・栄養・口腔管理の協働に関するケア実践マニュアル	医学書院	2024年6月	2,400円＋税
新宅 賀洋	現代生活学部食物栄養学科／教授	分担執筆	エッセンシャル栄養教育論 第5版	医歯薬出版	2024年9月	3,300円＋税
花田 卓司	文学部日本文化学科／准教授	分担執筆	「ムラの戸籍簿」を読み解く：「郷」と「村」の古代・中世	小ざ子社	2024年10月	5,000円＋税

20 UNIVERSITY LETTER vol.56

3Dスキャナーで中将姫像の「お身代わり像」を制作 當麻寺護念院で贈呈式



文学部日本文化学科では、大学開学60周年記念事業の一環として、當麻寺（奈良県葛城市）の文化財保護と活用をテーマにした「當麻寺プロジェクト」を実施。異なるゼミに所属する学生約50名が協働し、當麻寺で1000年以上続く伝統行事「聖衆来迎練供養会式」（2024年3月に国の重要無形文化財に指定）の魅力を広く発信する数々の活動に取り組みました。

そのうちのひとつが、當麻寺護念院が所蔵する中将姫像（木造法如化生坐像）の「お身代わり像」の制作です。本学と学術連携協定を結ぶ大阪電気通信大学（大阪府寝屋川市）の協力を得て、スーパーリアルな中将姫のレプリカを完成させました。同大学が所有する3Dスキャナーとプリンターで中将姫像を



スキャンして造形した後、本学の学生が彩色。質感や色彩の再現にこだわり、白地に赤褐色、黒を順に重ね、最後に金色を塗ること、時間の経過とともに実物と同様に色落ちしていくよう工夫しました。彩色を担当した代田萌華さん（日本文化3年）は、「ティッシュやスポンジを使い、剥落した質感を表現しました」と語り、お身代わり像の仕上がりに満足した様子を見せました。

11月4日には、當麻寺護念院で贈呈式が行われ、プロジェクトに参加した両大学の学生が葛本雅崇住職に「お身代わり像」を手渡しました。続いて、葛城市歴史博物館で開催の特別展「當麻寺練供養—会式を彩るもの—」に出版されていた本物の中将姫像が登場し「お身代わり像」との初対面を果たしました。また、11月6日から12月8日までの間は、同特別展において「お身代わり像」が本物の中将姫像の代わりに展示されました。



(写真左上)使用していくうちに実物と同じように色落ちするよう何層にも下地を塗り重ねた。
(写真左下)當麻寺護念院で贈呈式が行われ、制作を担当した学生の手で同寺の住職である葛本雅崇氏に「お身代わり像」が渡された。
(写真右上)3Dプリンターで細部まで再現された中将姫の「お身代わり像」。右が実物の中将姫像。

管理栄養士の卵が地域の高齢者の健康をサポート

9月14日、富雄小学校において、近隣に住む高齢者を対象とした栄養講座を実施しました。本講座は、奈良市富雄西地域包括支援センターからの依頼を受け、現代生活学部食物栄養学科の阿部咲子准教授とそのゼミ生が、地域の高齢者を支援する活動の一環として取り組んだものです。

当日は阿部咲子准教授が「高齢期を楽しく元気に過ごすための食事と体の関係性」と題し、高齢期の低栄養が引き起こす「フレイル※1」「サルコペニア※2」「認知症」などについて解説。高齢者の身体機能を向上させるために食生活で気をつけるべきことについて講義を行いました。

講義の後には、ゼミ生が10食品群のチェックシートを用いて参加者に日々の食事内容を記録してもらいました。結果をもとに、学生たちはそれぞれの参加者ごとに栄養アドバイスを行いました。

今後は、チェックシートの結果を分析し、日々の食事で不足しがちな食品を明らかにすることで、より具体的な食事の改善策を提案していく予定です。今回の活動は、学生にとって単に食事の内容を見直すだけでなく、生活背景を考慮した栄養指導の難しさと大切さを実感する貴重な機会となりました。



(写真)栄養指導を行う学生

(※1) 健康な状態と要介護状態になる前の中間の段階を示す。(※2) 加齢による筋肉量の減少及び筋力の低下。

経済経営学部 川村哲也准教授の研究プロジェクト「計算機実験による学校選択実験の再現と制度評価」が公益財団法人「日本経済研究センター」の2024年度研究奨励金交付研究に選定



経済経営学部の川村哲也准教授による研究プロジェクト「計算機実験による学校選択実験の再現と制度評価」が、公益財団法人「日本経済研究センター」の2024年度研究奨励金交付研究に選定されました。同センターは、経済学・社会学分野や政策研究の発展を目的に、優れた研究へ毎年奨励金を交付しています。

川村准教授の研究は、被験者実験で収集された学校選択における生徒役被験者の非合理的な選択や戦略的な行動をシミュレーションで再現するものです。被験者実験で収集された行動から人々の意思決定のアルゴリズムを抽出することで、費用的に網羅することが難しい多様な環境における学校選択問題の分析を可能にします。このシミュレーションをもとに、より公正で効率的な学校配分制度を構築し、入学者と学校のマッチング精度を向上させることが期待されます。



(写真上)伝統的な町家の姿をとどめる木奥家住宅前で風船爆弾について説明する学生。
(写真下)戦争遺跡(遺構)の定義などについて解説する末吉教授。

ならまち周辺の戦争遺跡を高校生平和大使と巡る 法学部の学生らが案内

第27代高校生平和大使(関西ブロック選出者)を対象とした戦跡フィールドワークが、高校生1万人署名活動実行委員会および高校生平和大使派遣委員会による関西ブロック「2024研修」の一環として開催されました。12月22日、法学部の末吉洋文教授(専門:平和学)とゼミ生らの案内で、奈良県や兵庫県、大阪府から集まった高校生平和大使11人と、OB、サポーターらを含む総勢35人がならまちに点在する戦争遺跡を巡りました。

この高校生平和大使の研修は2部構成で行われ、第1部では、カンボジア国境の村で活動するNPOによる記念講演のほか末吉教授の戦争遺跡に関する解説がありました。第2部で戦争遺跡を巡るフィールドワークを実施。戦争被害が少ないと思われるがちな奈良にも、戦争の爪痕が刻まれているこ

とを知ってほしいとの思いから、末吉ゼミでは戦跡を訪ねるフィールドワークを2020年度から続けています。戦争に関連する場所やできごとなどをGoogleマップに反映した「戦跡デジタルマップ」を作成して小学校や中学校での平和学習で活用しています。

今回訪問したのは、奈良市音声館(防空壕)、木奥家住宅(風船爆弾の製造)、なら工芸館(戦時中に衰退した一刀彫などの展示)、奈良市立椿井小学校(青い目の人形に関する資料)など。学生らは事前に準備した資料を手にしなが、それぞれの遺構について高校生平和大使に説明しました。

約2時間にわたるフィールドワークを終えた後、参加した高校生平和大使のひとり、奈良にこれほどの戦争遺跡があるとは知らなかった。平和について改めて考える良い機会」と語りました。

令和6年「知財ビジネスアイデア学生コンテスト」で 近畿経済産業局長賞を受賞

経済産業省 近畿経済産業局主催の「知財ビジネスアイデア学生コンテスト」において、現代生活学部居住空間デザイン学科の深谷友貴准教授が率いる学生11名のチームが、デザイン部門で最優秀賞にあたる近畿経済産業局長賞を受賞しました。

このコンテストは、社会課題の解決をテーマに、知的財産の重要性を学びながら、新たなアイデアを地域の産学連携に活用することを目的として、毎年開催されています。特許部門・デザイン部門・地域ブランド部門の3部門で募集が行われる同コンテストは、今年で7回目を迎えます。今回は全国の17大学から38チームが参加。第一次審査を通過した7大学11チームが、2025年1月25日にOIT 梅田タワー常翔ホール(大阪市北区)で開かれた最終審査会に臨みました。

飯石眞弘さん(居住3年)をリーダーとする本学のチームは、日常ではトートバッグとして使用でき、災害時には担架として活用できる「担架になるトートバッグ」を提案。トートバッグ内にインナーバッグを備えた仕様とし、担架として使う際には、インナーバッグに荷物を収納して背負えるよう工夫しました。この斬新なアイデアは、8チームがエントリーしたデザイン部門で狭き門を突破し、最優秀賞を獲得しました。

飯石さんは、「さまざまな人と協働する中で異なる視点を学び、チームで取り組む難しさと楽しさを実感した」と振り返り、「近畿経済産業局長賞を受賞できてうれしい。指導して下さった先生方に感謝したい」と喜びを語りました。



(写真上)災害時などで担架として使用できるトートバッグ。バッグ自体の収納力も抜群。
(写真下左)近畿経済産業局長賞受賞。
(写真下右)最終審査でプレゼンする学生たち。



IRに関するワークショップで、 他大学の学生と議論 グループワークの成果を発表



グループ代表として検討結果を発表する本学の学生

経済経営学部の学生9名が、大阪府と大阪市主催の大阪IRシンポジウム「大学生と考える、IR立地がもたらす大阪・関西の未来について」に参加しました。他大学の学生とIRに関連するテーマについて議論し、その成果を発表しました。

1月17日に国民會館大阪城ビル(大阪市中央区)で開かれた同ワークショップには、本学を含む5大学から41名が参加しました。大阪観光局理事長の溝畑宏氏による基調講演では、IRが国際観光文化都市への発展を促す起爆剤となる点が語られ、経済や雇用の創出を通じて日本の成長へつなげる可能性が紹介されました。

その後、異なる大学の学生で7チームを編成し、基調講演を踏まえてグループワークを実施。IRによる地域の変化や大阪・関西のアピールポイントについて討議し、それぞれの視点から発表を行いました。

各チームからは、IRがもたらすメリットだけでなく、潜在的な課題についてもさまざまな意見が上がりました。本学の学生にとって、他大学の学生との交流を通じ、観光や経済政策への理解を深める貴重な機会となりました。

学園前キャンパスが親子の笑顔でいっぱい 「第二回てづかのこどもフェス」

教育学部こども教育学科は、10月26日、学園前キャンパスで「第一回てづかのこどもフェス」を開催しました。大学開学60周年を記念した本イベントには、延べ10組、300名を超える親子連れが来場し、大盛況のうちに幕を閉じました。

当日は午前と午後の2部構成で実施し、午前の部では「えほんのおへや」「ふくわじゅつのおへや」「あーとおへや」「うんどうのおへや」の4つのプログラムが行われました。奈良県初の認定絵本士である学生が行

う絵本の読み聞かせや、腹話術人形「かんちゃん」が登場する楽しいパフォーマンス、オリジナルの宝石箱づくり、そして親子で体を動かして楽しめるアクティビティなど、多彩な内容で親子の笑顔があふれるひとときとなりました。

午後の部では、絵本作家のたかいよしかず先生によるお話会とワークショップ「みんな大きな絵を描こう」を開催しました。参加者はグループに分かれて模造紙に自由な発想で絵を描きます。たかい先生は各グループを回りながら、リクエストに応じて即興でキャラクターを描くなどとして、大きなアート作品

に仕上げていきました。イベント後のサイン会では、子どもたちはお気に入りの絵本にサインをもらい、はじけるような笑顔を見せていました。

フェスの運営には教育学部の4年生を中心とする50名の学生がボランティアとして参加。教育現場での仕事をめざす学生にとって、親子との交流を通じて実践的な経験を積む貴重な機会となりました。参加者からも「家族全員で楽しめた」「学生さんの対応が良かった」とうれしい感想が寄せられました。

教育学部は今後も地域とのつながりを大切に、交流の場を継続して提供していく予定です。



（写真上）大きなシャボン玉に笑顔がはじける。写真中）たかい先生のキャラクターに思い入れの絵を描き入れる。（写真下）認定絵本士の学生らによる読み聞かせ。

王寺町と包括連携協定を締結

10月11日、本学と王寺町は、子育て支援、教育及び研究活動の促進など多様な分野において相互に協力し、地域社会の持続的な発展と人材育成に寄与することを目的とした連携協定を締結しました。自治体との包括連携協定は、王寺町で9件目となります。

協定式において、平井康之町長は「以前からさまざまな分野で協力し合っているという実績がある。この協定を機に連携をさらに確かなものにしたい」と話し、奥村由美子学長は「本学の幅広い教育研究分野で王寺町の活性化に寄与したい」と語りました。協定式には王寺町のキャラクター「雪丸くん」も登場し、奥村学長と平井町長とともに記念撮影に応じました。

本学は「実学の帝塚山大学」として、王寺町の活性化に資する事業に連携して取り組んでいきます。



学生が創るこだわりの白みそ

帝塚山大学 × 「甚五郎」の産学連携プロジェクト

現代生活学部食物栄養学科の藤原永年教授（専門：細菌学）のゼミ生11人が、大阪の老舗手作りみそ店「甚五郎」と協力し、産学連携でオリジナルの白みそを開発しました。藤原ゼミでは2014年から細菌学や微生物に関連した卒業研究を目的にみそづくりを行い、そのノウハウを歴代のゼミ生から受け継いできました。今回のみそづくりでは、麹菌の選定から製法の工夫まで一から見直し、「甚五郎」の職人からもアドバイスを受けながら開発を進めました。

原材料には、米麹、大豆、塩のみを使用し、大豆は甘みが強い北海道産「鶴姫」をセレクト。蒸すことで薄皮に含まれる栄養を逃さないよう工夫しました。また、一般的な白味噌の塩分が5〜7%であるのに対し、2.5%と控えめな濃度に設定。非加熱・無添加製法により、素材本来の甘みとうま味を最大限に引き出しています。学生たちは「しっかりと塩味も感じられる白みそなので、和風にも洋風にも幅広く使えます」と出来栄に自信をのぞかせました。

12月初旬には、奈良市と大和郡山市の啓林堂書店の店頭で学生たちが街頭販売を行いました。毎年12月から販売される藤原ゼミの白みそはリピーターが多いのも特徴です。「おいしかったよ」と声をかけてくださるお客様も多く訪れ、帝塚山オリジナルみその人気ぶりがうかがえました。みその販売による収益金はすべて奈良県善意銀行に寄附の予定です。在庫がある限り販売しているので、関心のある方はぜひメールでお問い合わせください。

【商品情報】

商品名：帝塚山大学オリジナルみそ（白味噌）

価格：1個（400g）500円、お徳用（1kg）1,000円（ただし、別途送料が必要。大学での受け渡しも可能） 購入者にはオリジナルみそレシピを進呈 購入希望の場合は、藤原ゼミ fujiwaraeenenzemi@gmail.com までお問合せください。





父母等の皆さまへ

令和6(2024)年度教育懇談会を 学園前キャンパスで開催

本学では、学生の修学や大学の支援状況について父母等の皆様に理解をさらに深めていただく機会として、教職員と直接懇談できる「教育懇談会」を毎年開催しています。

10月20日、令和6（2024）年度同懇談会を学園前キャンパスで実施し、108家庭の方々にお越しいただきました。奥村由美子学長の挨拶に始まり、午前中は学園講堂でキャリアセンターから昨今の就職活動の進め方について詳しい解説が行われました。その後の昼食懇親会を挟んで、午後からは学科に分かれて教育方針や学生支援内容について説明がありました。在学生自身がプロジェクトや留学などの体験を発表する学科もあり、よりリアルな学生生活の様子を父母等の皆様にお届けしました。学生の成績や単位などキャンパスライフにかかわる相談に教員がブースで対応したほか、学科ごとに設けられたキャリアブースでは就職に関する相談も受け付けました。

本学はこれからも、「学生への教育・支援がきめ細かい」大学をめざし、より充実した教育活動を展開してまいります。



(上)奥村由美子学長による大学の説明で教育懇談会は幕を明けた
(下左)学科別プログラムでは教育内容について詳しく説明があった
(下中)短期留学について報告する経済経営学部学生
(下右)食事をしながら懇親を図る教員と父母ら

保護者アンケートから(抜粋) 一部のご意見・ご感想をご紹介します。

- 学生一人ひとりに対して手厚く対応してくれる(日本文化3年)
- 就職活動をしっかりサポートしていただいていることがわかり安心した(経済経営4年)
- 先生方が親身になって相談に乗ってくださるのがすばらしい(法3年)
- このように大学のことを知ることができる機会を設けていただけるのは非常にありがたい(心理1年)
- 食事の際に交流しやすいように工夫されるとさらによかったと思う(食物栄養2年)
- 就職活動の早期化にびっくりさせられたが、キャリアセンターの話がわかりやすくてとてもよかった(居住3年)
- 同じ大学で学ぶ学生の父兄の方々や先生方と直接話がすることができて、実りの多い一日でした(こども教育1年)

令和6（2024）年度前期学長表彰

9月27日、東生駒キャンパスで令和6年度前期の学長表彰の表彰式を行いました。「学長表彰」は、本学の名誉を高めることに貢献した学生または学生団体に学長が表彰する制度で、「学長賞」と、それに次ぐ「学長奨励賞」の2つの賞が設けられています。今回、学長賞を受賞した学生および学生団体は以下のとおりです。



心理学部心理学科 大学生が創る 奈良の心理教育を活用した予防的 支援事業チーム (写真左の3人)

2024 年度より奈良県教育委員会と共催で「心理教育を用いた予防的支援事業」で奈良県内の小学校で心理教育を実施。本学の教育力の高さをアピール。

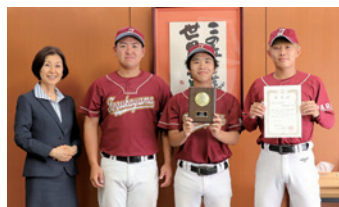
文学部日本文化学科4年

大島 颯斗さん (写真右から2人目)

文学部が大学開学60周年事業の一環として取り組む「當麻寺プロジェクト」において、練供養のポスターデザインを担当し同寺のPRに寄与。

軟式野球部

休部状態だった同部を復活させただけでなく、2024 年西都大学軟式野球連盟春季リーグ戦(2部)で優勝し創部以来初の1部昇格を果たした。



令和6（2024）年度卒業式を実施しました



令和6（2024）年度帝塚山大学9月卒業式を9月26日、東生駒キャンパス「まほろば」で挙行し、6学部の合計14人が学び舎から巣立ちました。

奥村由美子学長は各学部の卒業生代表に卒業証書と学位記を授与すると、続く式辞で、2024年夏に行われたパリオリンピックでの日本選手団の活躍に言及しました。「努力が実を結ぶということを体現された様子は、見ている私たちにも勇気や感動を与えてくれた。皆さんが大学生活を通して得たことは、これからの人生で必ず支えになる。自分の歩んできた道を信じて、社会人としての第一歩を踏み出してほしい」と、卒業生にはなむけの言葉を贈りました。

FINANCIAL REPORT

令和5(2023)年度決算について(報告)

帝塚山大学を設置する学校法人帝塚山学園の令和5(2023)年度決算が、2024年5月24日開催の理事会において承認されましたので、概要をお知らせします。

【収入】

収入の主たる科目は次のとおりです。
・学生生徒等納付金5,316百万円 対前年度430百万円減
・手数料 98百万円 対前年度1百万円増
・寄付金 56百万円 対前年度13百万円減
・経常費補助金 1,213百万円 対前年度78百万円減
・雑収入 204百万円 対前年度84百万円減
収入合計は前年度と比較して579百万円の減少となりました。その主な要因は、学生数の減少により学生生徒等納付金、寄付金、経常費補助金が減少したことによります。

【支出】

支出合計は、前年度と比較して324百万円の減少となりました。その主な要因は、教職員数及び退職者の減による人件費の減少、照明LED化等のエコキャンパス推進に伴う光熱費の減少、償却終了による減価償却費の減少によるものです。
支出の大部分を占める教育活動支出の主な科目の状況は次のとおりです。
・人件費 4,751百万円 対前年度148百万円減
・教育研究経費・管理経費 3,123百万円 対前年度153百万円減

【収支差額】

経常収支差額は816百万円のマイナス、基本金組入前当年度収支差額は785百万円のマイナスとなりました。前年度と比較して、支出超過額はそれぞれ288百万円、255百万円増加しました。また、特定資産の取り崩し等により学園の正味財産は785百万円の減少となりました。
令和5年度の入学者が中高を除き、各々校園で募集定員を下回ったことを反映し、決算は引き続き赤字となり、支出超過額も増大する結果となりました。帝塚山学園経営安定化計画(大学編・中高編・小幼編)に基づいた諸施策、特に募集定員の確保に向けた取組みを確実に遂行し、収支均衡へ努力してまいります。

NEWS

第58回 帝塚山大学卒業式
第33回 帝塚山大学院修了式

【日時】 2025年3月22日(土) 第1部9:30～、第2部13:30～
【会場】 帝塚山大学 学園前キャンパス 学園講堂
(奈良市学園南3-1-3)

- ①第1部
《心理学部・心理科学研究科 現代生活学部 教育学部》
9:30 開場・受付
10:00 卒業式
②第2部
《文学部・人文科学研究科 経済経営学部 法学部》
13:30 開場・受付
14:00 卒業式

※最新情報は大学ホームページなどのご案内を確認するようにしてください。



訃報

ご生前のご功績を偲び、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。


本学名誉教授で元副学長の中山伸先生が2024年7月31日、75歳で逝去されました。ご専門は動物生理化学、生理学、行動学、養蚕学。理学博士(大阪市立大学)。1973年に帝塚山短期大学助手に着任された後、講師、助教授、教授を歴任され、2004年に帝塚山大学現代生活学部の教授に就任。2014年3月に定年退職され、特任教員を経て2015年4月に名誉教授の称号を授与されました。
2008年4月から2012年5月まで副学長および学園評議員を務められ、2012年4月から5月28日まで学長を代行して大学運営にあたりました。


本学名誉教授で元学長の小泉進先生が令和6年10月31日、95歳で逝去されました。ご専門はエコノメトリックス、マクロ経済学、産業経済学。2006年、瑞宝重光章受章。
1953年、大阪大学法経学部(現・経済学部)経済学科を卒業後、同年、経済学部助手に就任されました。1958年に米国ミシガン大学経済学部大学院博士課程を修了しPhD.を修得。同年、大阪大学経済学部講師、1964年には米国ペンシルベニア大学ウォートン校客員准教授を務められました。1969年、大阪大学経済学部教授に昇任し、1979年から1981年まで経済学部長を務められました。1993年、大阪大学名誉教授になられた後、同年に本学経済学部教授に着任。1994年より経済学部長および学園理事・評議員、1996年から1999年にかけては学長を務められました。1999年3月に退職、特任教授を経て、2000年4月に本学の名誉教授の称号を授与されました。


本学現代生活学部元教授の岡本光弘先生が、2024年10月27日、82歳で逝去されました。ご専門は生化学、病態医学。医学博士(大阪大学)。1967年、大阪大学医学部卒業、1973年、同大学院医学研究科博士課程修了。大阪大学医学部文官助手、米国カリフォルニア大学やジョンズ・ホプキンス大学の研究員を経て、1986年、大阪大学医学部教授に就任。1999年、同大学院医学系研究科教授、2002年、同大学院生命機能研究科教授を経て、2006年に大阪大学名誉教授の称号を受けられました。同年、本学現代生活学部食物栄養学科教授に着任。2008年の定年退職後、特任教授を経て、2013年3月に退職。ステロイドホルモンの合成や作用機序に関する研究で顕著な業績を残され、生涯を通じて多数の外部研究補助金を獲得されました。また、帝塚山大学出版会から「管理栄養士のための栄養生化学実験ハンドブック」を刊行するなど、管理栄養士養成にかかる教育活動にも大いに貢献されました。

Event & Information

※予告なく、イベントが中止、開催形態が変更される場合がありますので、

SEMINARS

開催予定のイベント

学校教育法第105条に基づく履修証明プログラム

帝塚山大学 織物講座2025

2025年度の織物講座(初級編)受講者を募集します。

本講座では、織物の発明から織物の歴史について幅広く学びます。

実習では、奈良の伝統産業の「奈良晒」や「大和機」、古代からの織物技法「腰機」、「平織」「綾織」「ノッティング」「綴れ織り」「麻・木綿・絹の糸づくり」などさまざまな織物の基本技術を習得します。なお、初級編修了者を対象とした応用編や研究編も開講しています。

本講座を受講し、既定の学習時間(60時間以上)を満たした方には、学校教育法第105条に基づき「履修証明書」と発行します。

- 【開催日時】 2025年4月15日(火)～2026年2月10日(火)
毎週火曜日 10:00～15:30(休憩含む) 全28回
- I(前期) 全14回 2025年4月15日(火)～7月29日(火)
II(後期) 全14回 2025年10月7日(火)～2026年2月10日(火)
- ※初級編II(後期)は、I(前期)修了者のみ受講可能です。
※通年で申込み後、半期のみへの変更や返金はできません。
また前期のみ申込み後に通年への変更もできません。
- 【定員】 8名(最低開講人数を満たさない場合、不開講となる場合があります)
- 【会場】 帝塚山大学 東生駒キャンパス
- 【講師】 植村和代(帝塚山大学名誉教授)、岡本由実子(ほか)
- 【受講料】 【通年申込】18万円 【半期申込】10万円(各期)
- 【申込方法】 本学HPよりダウンロードした所定の申込書をFAXで送付
- 【出願期間】 (通年・前期)2025年3月21日(金)17:00必着
(後期)2025年9月1日(月)～9月16日(火)
- 【お問合せ】 帝塚山大学 総務課 織物講座事務局(月・金9:00～17:00)
〒631-8501 奈良市帝塚山7-1-1
TEL:0742-48-9122 FAX:0742-48-9135

帝塚山大学考古学研究所・附属博物館共催

市民大学講座

- 第533回 4月12日(土) 14:00～15:30 【3/17(月) 9:30受付開始】
「聖徳太子の宮」
平田 政彦 氏(斑鳩町教育委員会事務局生涯学習課参事)
- 第534回 4月26日(土) 14:00～15:30 【4/7(月) 9:30受付開始】
「聖徳太子の信仰」
岡島 永昌 氏(王寺町地域交流課主幹・文化財学芸員)
- 第535回 5月10日(土) 14:00～15:30 【4/21(月) 9:30受付開始】
「聖徳太子の墓」
安村 俊史 氏(柏原市立歴史資料館館長)
- 第536回 5月24日(土) 13:00～16:30
【4/28(月) 9:30受付開始 5/7(水) 正午締切】
市民大学ウォーク23 「聖徳太子の宮と寺」
清水 昭博 教授(帝塚山大学考古学研究所長・附属博物館長)
- 【開催場所】【第533回・第534回・第535回】東生駒キャンパス 1号館1301教室
【第536回】
集合場所:法隆寺
解散場所:JR法隆寺駅
時間:13:00～16:30(予定)
コース:法隆寺～若草伽藍～東院伽藍～法輪寺～法起寺～
中宮寺～上宮遺跡～JR法隆寺駅
- 【定員】 【第533回・第534回・第535回】150名
(申込予約席100席・先着順当日席50席)
【第536回】50名(抽選)
- 【受講料】 無料
- 【申込方法】 大学HP内 所定の申込フォームから
- 【お問合せ】 帝塚山大学考古学研究所
FAX:0742-48-8783
Mail:arch@tezukayama-u.ac.jp

NEWS

第17回博物館実習生による企画展示 「彩を纏う(いろどりをまとう) 一着物文化を語る道具たち」を開催

1月20日から2月15日にかけて、第17回博物館実習生による企画展示「彩を纏う(いろどりをまとう)一着物文化を語る道具たち」を開催しました。

附属博物館を設置する本学は、学芸員資格取得に必須の「博物館実習」を大学所蔵の本物の史料に触れながら学内で行うことができます。本展示は、文学部の学生が企画から展示までを手がける同実習の集大成として、毎年1月に一般の方々へ成果を披露するものです。

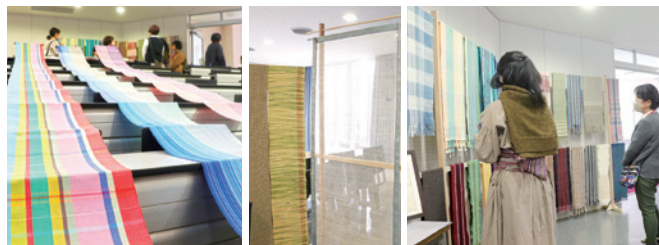
今年の展示は三章構成で、一章では、「綿繰り機や機織り道具など布づくりに欠かせない民具」を、二章では「伊勢型紙や見本帳といった染物の資料を、三章では櫛やかんざし、鏡台などおしやれを彩る道具類を展示。約20点の道具や資料を通じて華やかな着物文化の魅力を紹介しました。

1月25日と2月1日には、展示を企画した学生によるギャラリートークを実施し、来場者に展示品の解説を行いました。



帝塚山大学織物講座修了展を開催しました。

3月14日から17日の間、織物講座の修了展が東生駒キャンパス2号館で開催されました。会場には、平織や綾織、ノッティングなど多彩な技法で織られた作品が並びました。ランチョンマットなどの小品から反物のほか、パイナップルの繊維で紡いだ糸を用いた作品など、受講者の個性や感性が光る作品が多く、来場者はその出来栄に感心しながら見入っていました。



帝塚山大学関連の

公式SNS

大学公式SNSアカウントでは、学生の写真や授業の様子、キャンパス風景など「帝塚山大学の今」をご紹介します。大学HPにない情報も日々発信していますので、皆様もぜひフォローしてください。公式SNS一覧は大学HPにも掲載しています。



入試広報課
@tzn5775t

受験生用のお知らせ



X (Twitter)

現代生活学部
居住空間デザイン学科
@tez_kyoju

学科の取組みについてのお知らせ

図書館
@tez_library

帝塚山大学図書館が実施するイベントの案内、長期貸出の開始や台風などで臨時休館した際の情報を提供

帝塚山大学 奈良学総合文化研究所
@naragaku_tzk

講座案内などの活動告知



YouTube

入試広報課
@TEZUKAYAMAUNIVERSITY

大学公式アカウント

法学部
@TezukayamaUniversity_Law

学科の取組みについてのお知らせ

帝塚山大学 奈良学総合文化研究所
@user-qk9ur5cj7v

講座を配信

考古学研究所・附属博物館
@user-vv4tw5ew2h

市民大学講座を配信



Instagram

入試広報課
tezukayama_university

・学生やキャンパスの紹介・イベント告知などの受験生・在学生へのお知らせ
・受験勉強などに関するお知らせ

文学部
tezukayama.bungakubu

学科の取組みについてのお知らせ

経済経営学部
tez.keikei

学科の取組みについてのお知らせ

法学部
tezukayama_law

学科の取組みについてのお知らせ

心理学部心理学科
tez_psychology

学科の取組みについてのお知らせ

現代生活学部 居住空間デザイン学科
tez_kyoju

学科の取組みについてのお知らせ

教育学部
tezukanokodomo

学科の取組みについてのお知らせ

キャリアセンター 資格コーナー
tez_shikaku

資格講座に関するお知らせ

子育て支援センター まつぼっくり
tez_library

折り紙や工作などの動画＆集いの広場などのイベント参加募集

ブログ

図書館HPからリンク

①学生選書会で選ばれた本の紹介
②図書館スタッフのおすすめ本の紹介

OPEN 2025
CAMPUS

プログラム

- キャンパスガイダンス&入試説明会 ■キャンパス見学ツアー
- 学科体験授業 ■個別相談 ■先輩と話そう!
- 学生スタッフによる特別イベント など

※プログラムは変更の可能性があります。

全日程・全学部・全学科対象

学園前キャンパス	東生駒キャンパス	学園前キャンパス	東生駒キャンパス	学園前キャンパス	学園前キャンパス	東生駒キャンパス	東生駒キャンパス
4/27日	5/25日	6/15日	7/6日	7/27日	8/9土	8/16土	9/7日
11:00~16:30	11:00~16:30	11:00~16:30	11:00~16:30	11:00~16:30	11:00~16:30	11:00~16:30	13:00~16:30

東生駒キャンパス開催時は近鉄奈良線「東生駒」駅より無料シャトルバスを運行

全学部・全学科
対象

入試対策講座
&ミニ・オープンキャンパス

学園前キャンパス

10/5日

9:30~小論文・国語・英語
入試説明会、個別入試相談、
学園前キャンパスツアー、先輩トーク

オープンキャンパスに参加できない方には、本学スタッフが個別に案内しています。希望により個別相談も行っていますので、ご都合に合わせて事前にご予約ください。

◎以下の連絡先まで、電話でお申し込みください。

入試広報課 0742-48-8821 (直通)

最新情報はこちら

[入試情報サイト]

